大船渡市観光ビジョン

平成26年9月

大船渡市

目　次

第１章 観光ビジョンの基本的な考え方 1
１．観光ビジョン策定の背景と趣旨 1
２．観光ビジョン策定の主な経緯 2
３．観光ビジョンの位置付け・計画期間 4
第２章 大船渡観光の現状と課題 6
１．現状 6
２．課題 14
第３章 大船渡観光の基本理念と将来像 17
１．大船渡観光の売出し方 17
２．観光振興で大切にしたいこと（基本理念） 19
３．観光振興の将来像 20
第４章 具体施策の展開 23
１．施策の体系 23
２．各種施策 24
第５章 推進体制 69
１．大船渡市観光ビジョンの推進に向けて 69

第１章　観光ビジョンの基本的な考え方

１．観光ビジョン策定の背景と趣旨

大船渡市の観光は、昭和 39 年 6 月、陸中海岸国立公園が碁石海岸を含む釜石市から気仙沼市まで拡張されたことを契機として、「さんりく・リアス・リゾート構想（平成元年～平成 18 年)」や「『マリン・リゾート大船渡 21 プラン』基本計画（平成 6 年～平成 15 年)」等に基づき、観光資源の開発や観光客の誘致等に鋭意取り組んできたが、観光ニーズの多様化や観光形態の変化などにより、観光入込客数は年々減少傾向にある。

また、国立社会保障・人口問題研究所が、平成 25 年 3 月に推計した将来推計人口をもとに、大船渡市の将来人口の推移を見ると、平成 22 年に 40,737 人であった総人口は、平成 52 年には 24,969 人まで減少（平成 22 年比で 38.7%減少）すると見込まれている。

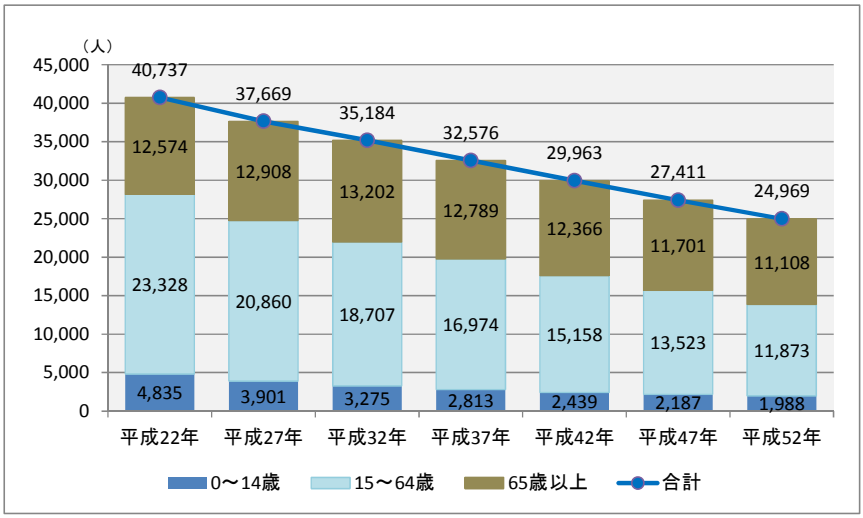
こうした中で観光は、交流人口の拡大や地域の魅力の掘り起こし等を通じて地域を活性化し、地域の様々な課題解決に向けた展望を開くものとして期待されている。

東日本大震災以後、震災前の課題克服を含めた「復興=新しいまちづくり」が始まっている。また、三陸沿岸地域は、平成 25 年 5 月に環境省から「三陸復興国立公園」として指定され、同年 9 月には、地質遺産を見どころとする自然公園「日本ジオパーク」に認定されるなど全国から注目されている。

今後、本市の観光が大きく発展していくためには、今一度、地域の魅力を見つめ直し、自分たちが住んでいるまちに誇りを持ち、訪れる人々に本市の本質的な魅力を伝え、交流人口の拡大を図るとともに、滞在時間を増やす仕掛けづくりが重要となっている。

そこで、本ビジョンでは、大船渡市の魅力である「海」、「山海の幸」、「浜の文化」に焦点を当てて、気仙地域を含めた知られざる隠れた文化を最大限に発揮できるよう、観光に関わる事業者のみならず、市民も一体となって本市の魅力を発信することにより「三陸といったら真っ先に大船渡市を思い浮かべる」ような観光地を目指すことを目標に、今後の観光施策等の指針となる観光ビジョンの策定を行うものである。

図１　大船渡市の将来人口の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所
「平成 25 年 3 月推計」

２．観光ビジョン策定の主な経緯

本ビジョンは、平成 25 年度大船渡市地域ブランド調査開発業務における調査検討を踏まえつつ、関係団体及び庁内関係各課とのヒアリングや意見交換を経て、市議会全員協議会、パブリックコメント・市政モニターの意見を反映して策定したものである。

（１） 平成 25 年度大船渡市地域ブランド調査開発業務

平成 25 年度大船渡市地域ブランド調査開発業務は、震災からの復旧にとどまらず、未来への希望あふれる「復興」へのビジョンをつくり共有するために、魅力的な地域のイメージ（地域ブランド）を形成するための第一歩となる取組である。本業務では以下の取組により、地域ブランドの検討を行った。

みんなのまちミーティング	実施時期：平成 25 年 8 月 参 加 者：市民及び市外に居住する有志 26 名 オンラインでのアイディア・コメント投稿 55 件 内　　容：「自分たちがやっていきたい」「市民みんなで取り組みたい」活動アイディアをワークショップ形式で検討
ブランド調査（郵送及びインターネットによるアンケート調査）	実施時期：平成 25 年 9 月 調査対象：大船渡市、首都圏、宮城県在住の 15 歳～69 歳男女、1,257 名 調査内容：大船渡市の認知度、魅力等
その他意見収集	インタビュー調査やフォトコラージュ（写真）調査、チラシ配布などにより、広く大船渡市に対する意見、活動アイディアなどを収集

（２） 観光客アンケート調査

東京タワーさんままつり来場者アンケート	実施時期：平成 25 年 9 月 調査対象：東京タワーさんままつり来場者、104 名
大型客船クルーズ乗船客アンケート	実施時期：平成 25 年 10 月 調査対象：「飛鳥Ⅱ」「ぱしふぃっくびいなす」乗船客、15 名
観光客アンケート	実施時期：平成 25 年 10 月、同年 11 月、平成 26 年 5 月 調査対象：碁石海岸レストハウス、道の駅「さんりく」、大船渡おさかなセンター来訪者、239 名

（３） 庁内関係各課・関係団体ヒアリング

庁内関係各課等	実施時期：平成 25 年度 調査対象：観光関連施策の取組状況等に関するヒアリングを実施
関係団体	実施時期：平成 25 年 11 月 調査対象：宿泊施設事業者 6 団体、観光施設事業者 6 団体、交通事業者 2 団体、飲食施設事業者 7 団体、大船渡市観光物産協会、大船渡商工会議所

（４） 庁内関係各課・関係団体意見交換

庁内関係各課等	平成 26 年 6 月 26 日～平成 26 年 7 月 28 日（延べ 9 回）
関係団体	一般社団法人大船渡市観光物産協会：平成 26 年 7 月 10 日（事務局）、同年 7 月 11 日（理事会） 大船渡商工会議所：平成 26 年 7 月 11 日 大船渡ブランド化推進会議※：平成 26 年 7 月 1 日、同年 9 月 26 日

※大船渡ブランド化推進会議：近年の観光物産の動向と需要に的確に対応し、かつ地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進することによる地域活性化を図ることを目的に、市内の商工観光物産、農水産業、宿泊業、飲食業、水産加工業関係団体や行政の実務担当者で組織している団体。

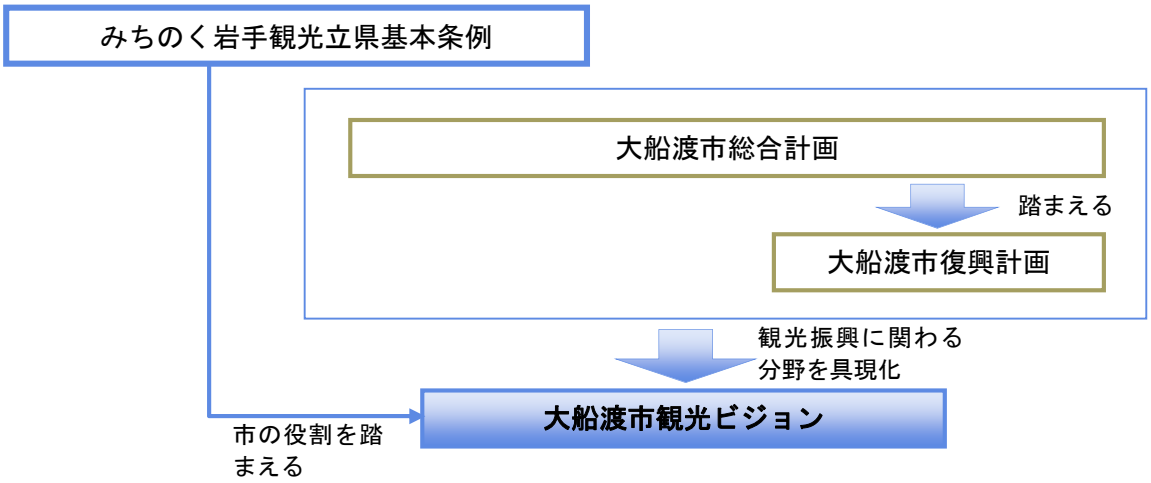
（５） 市議会全員協議会、パブリックコメント・市政モニターからの意見聴取

市議会全員協議会	開催月日：平成 26 年 8 月 4 日
パブリックコメント・市政モニターからの意見聴取	実施期間：平成 26 年 8 月 29 日～平成 26 年 9 月 12 日

３．観光ビジョンの位置付け・計画期間

（１） 位置付け

本ビジョンは、「みちのく岩手観光立県基本条例」の基本理念にのっとり、市の役割を踏まえるとともに、「大船渡市総合計画」、「大船渡市復興計画」との整合を図りながら、観光振興に関わる分野を具現化する観光振興施策を示すものである。



＜みちのく岩手観光立県基本条例＞

（基本理念）

第３条　本県の観光振興は、観光立県の実現を目指し、県、市町村、県民、観光に関係する団体および観光事業者の相互理解と協力のもと、次に掲げる事項に取り組むことにより、観光産業を、農林水産業、製造業などに広く波及効果をもたらす総合産業として創り育てていくことを基本理念とします。

（１） 地域の自然、歴史、文化、さらには地域固有の習わし、食、地場産品など、地域の特性や魅力を最大限活用し、観光客がゆとり、やすらぎと感動を覚え、再び訪れたいと思う魅力ある観光地づくりを進めること。

（２） 県民の地域を誇りとする気持ちや、おもてなしの心を育み、誰もが安心して快適に観光できる受入れ態勢の整備を進めること。

（３） 岩手の素朴さを大事にして地域の特性や魅力などの情報を発信するとともに、広域的な連携の下に誘客活動を進めること。

（２） 計画期間

本ビジョンの計画期間は、大船渡市総合計画との整合を図り、平成 26 年度から平成 32 年度までの７年間とする。

平成 26 年度から平成 27 年度までの２年間を前期、「大船渡市総合計画後期基本計画」策定後からの３年間（平成 28 年度～平成 30 年度）を中期、計画期間の締めくくりとなる２年間（平成 31 年度～平成 32 年度）を後期と設定する。

<table>
<tr><th>平成 26 年度</th><th>平成 27 年度</th><th>平成 28 年度</th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th><th>平成 31 年度</th><th>平成 32 年度</th></tr>
<tr><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td colspan="7">大船渡市総合計画（基本構想）（平成 23 年度～平成 32 年度）</td></tr>
<tr><td colspan="2">前期基本計画
（平成 23 年度～平成 27 年度）</td><td colspan="5">後期基本計画
（平成 28 年度～平成 32 年度）</td></tr>
<tr><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td colspan="7">大船渡市観光ビジョン（７年間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">前期（２年間）</td><td colspan="3">中期（３年間）</td><td colspan="2">後期（２年間）</td></tr>
<tr><td colspan="7"></td></tr>
</table>

第2章 大船渡観光の現状と課題

1．現状

（１） 岩手県観光の現況

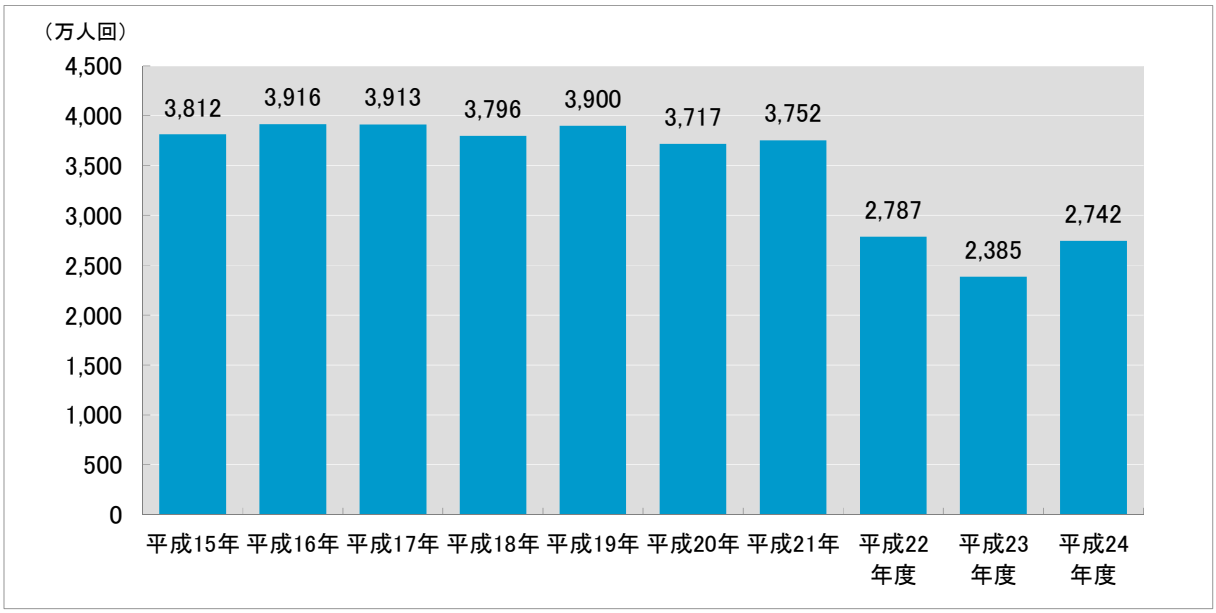
① 岩手県における観光入込客数の推移

岩手県の観光入込客数は、平成 15 年から平成 21 年までは 4,000 万人回弱で、ほぼ横ばいで推移していたが、平成 22 年度は、2,787 万人回で、前年度より 244 万人回、8.0%減少している。（平成 22 年度以降、調査・集計方法が変更され、平成 21 年以前との単純比較はできないが、平成 22 年度と同様の条件で集計した平成 21 年度の入込客数は 3,031 万人回となる。また、平成 22 年度は、沿岸エリアにおいて東日本大震災の津波被害により入込データが喪失している市町がある。）

減少した主な要因としては、記録的猛暑等に加え、東日本大震災の影響が考えられる。

平成 23 年度の観光入込客数は、2,385 万人回で、東日本大震災の影響が残り、前年度より 402 万人回、14.4%の大幅な減少となった。

図２　岩手県観光入込客数の推移



※平成 22 年度は、東日本大震災の津波被害により入込データが喪失している市町あり。

資料：岩手県観光統計概要／財団法人岩手県観光協会

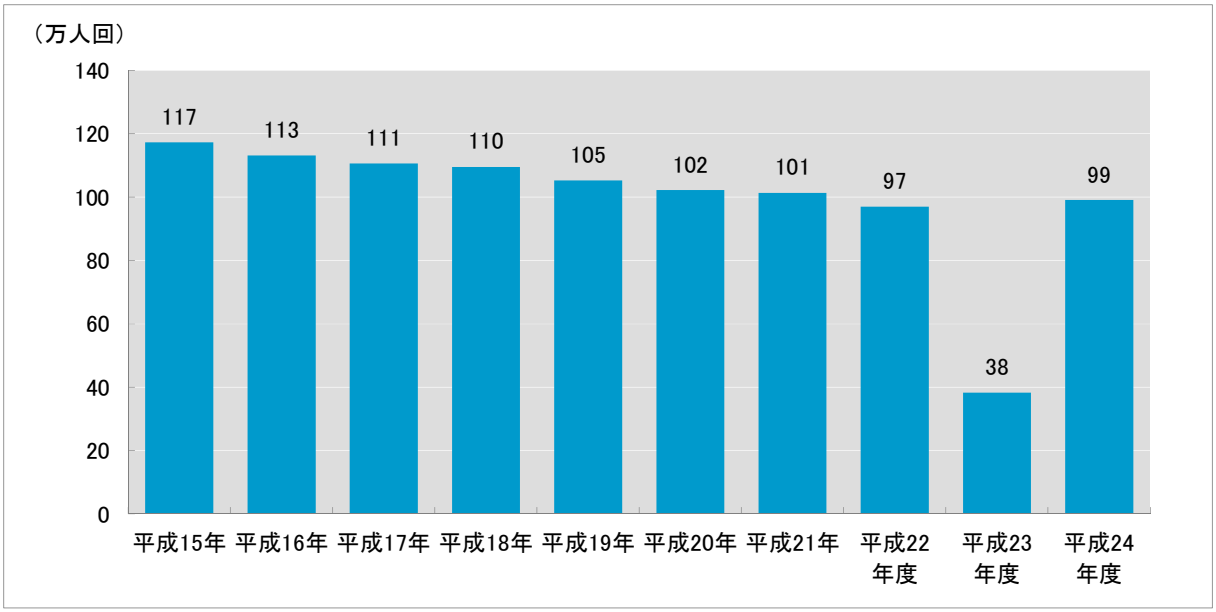
（２） 大船渡観光の現況

① 大船渡における観光入込客数の推移

大船渡の観光入込客数は、平成 15 年以降減少傾向にある。平成 23 年度の観光入込客数は、38 万人回で、前年度の約 4 割と大幅に減少しており、東日本大震災の影響がうかがわれる。

平成 24 年度の観光入込客数は、99 万人回となっている。これは、復興従事者の宿泊が増えているためであり、実際の観光客数としては、震災前の水準まで回復していないと考えられる。

図３　大船渡市観光入込客数の推移



資料：岩手県観光統計概要／財団法人岩手県観光協会

② 大船渡における宿泊観光入込客数の推移

大船渡の宿泊観光入込客数は、27～30 万人回で推移していたが、震災後の平成 24 年は 60 万人回を超えている。

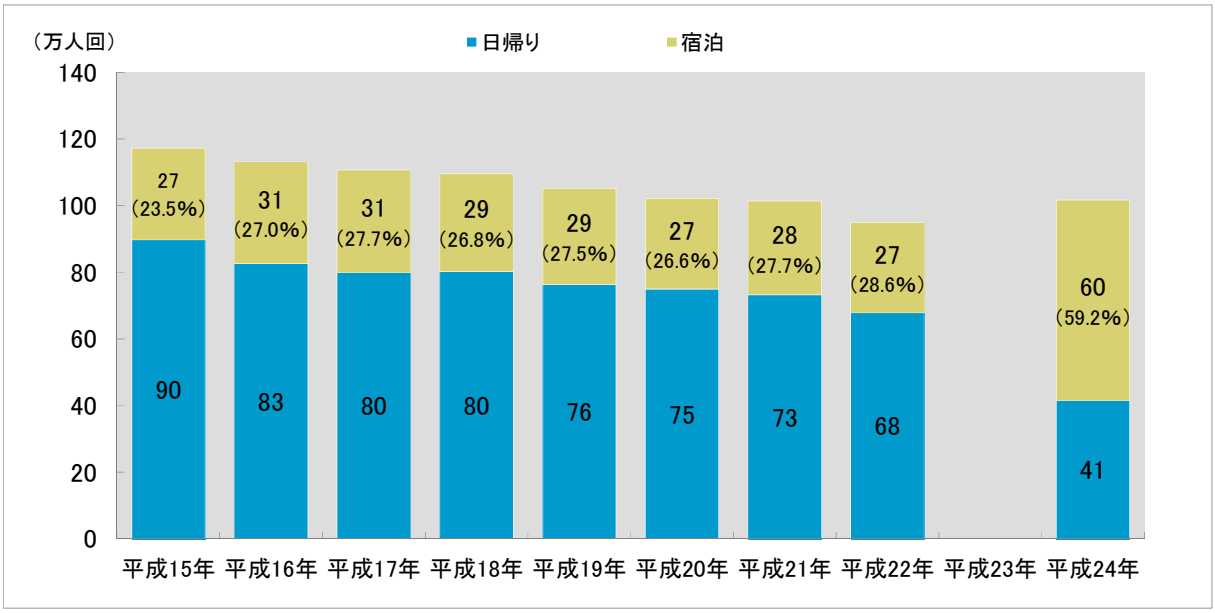
また、日帰り・宿泊の構成比で見ると、宿泊は全体の 3 割弱で推移していたが、震災後は 6 割を占めている。これは復興従事者の宿泊増に起因すると考えられる。

表１　大船渡市形態別観光入込客数の推移

形態		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
日帰り	（人回）	896,702	826,238	799,383	802,360	763,100	749,640	733,015	678,153	－	414,978
	（%）	76.5	73.0	72.3	73.2	72.5	73.4	72.3	71.4	－	40.8
宿泊	（人回）	275,182	304,997	306,808	293,076	288,772	271,989	280,385	271,041	－	600,958
	（%）	23.5	27.0	27.7	26.8	27.5	26.6	27.7	28.6	－	59.2
合計	（人回）	1,171,884	1,131,235	1,106,191	1,095,436	1,051,872	1,021,629	1,013,400	949,194	－	1,015,936
	（%）	100	100	100	100	100	100	100	100	－	100

資料：大船渡市統計書

図４　大船渡市形態別観光入込客数の推移



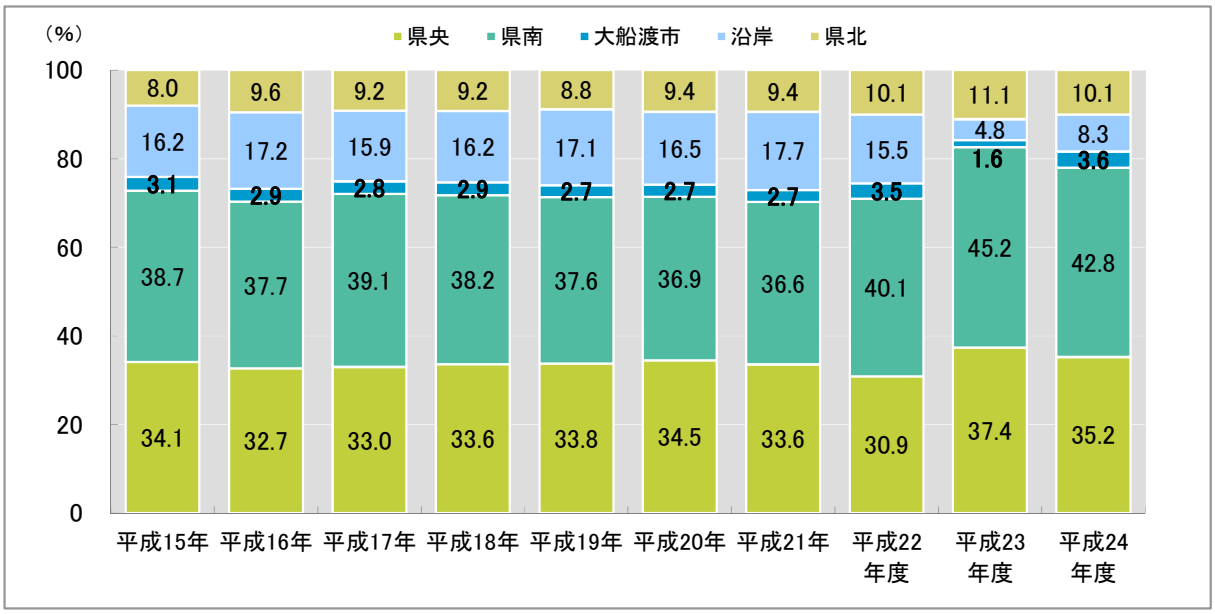
※図3と数値が一致しないのは、年度、年などのデータの集計方法が異なるため

③ 大船渡の岩手県における観光入込客数の占有率

岩手県における大船渡の観光入込客数の占有率は、平成 22 年度までは、約 3%で推移していたが、東日本大震災後の平成 23 年度は 1.6%に減少した。

一方で、平泉町を含む県南エリアは、世界文化遺産に登録された平成 23 年度には 45.2%を占め、大きく増加した。

図５　大船渡市の岩手県における占有率の推移



資料：岩手県観光統計概要／財団法人岩手県観光協会

エリア名	市町村名
県央エリア	盛岡市、滝沢市、矢巾町、紫波町、雫石町、八幡平市、岩手町、葛巻町
県南エリア	西和賀町、花巻市、遠野市、北上市、金ヶ崎町、奥州市、平泉町、一関市、藤沢町
沿岸エリア	岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、田野畑村、釜石市、大船渡市、住田町、陸前高田市
県北エリア	洋野町、軽米町、九戸村、二戸市、一戸町、久慈市、野田村、普代村

※上図　における「沿岸エリア」は大船渡市を除いた値

④ 大船渡のイメージ

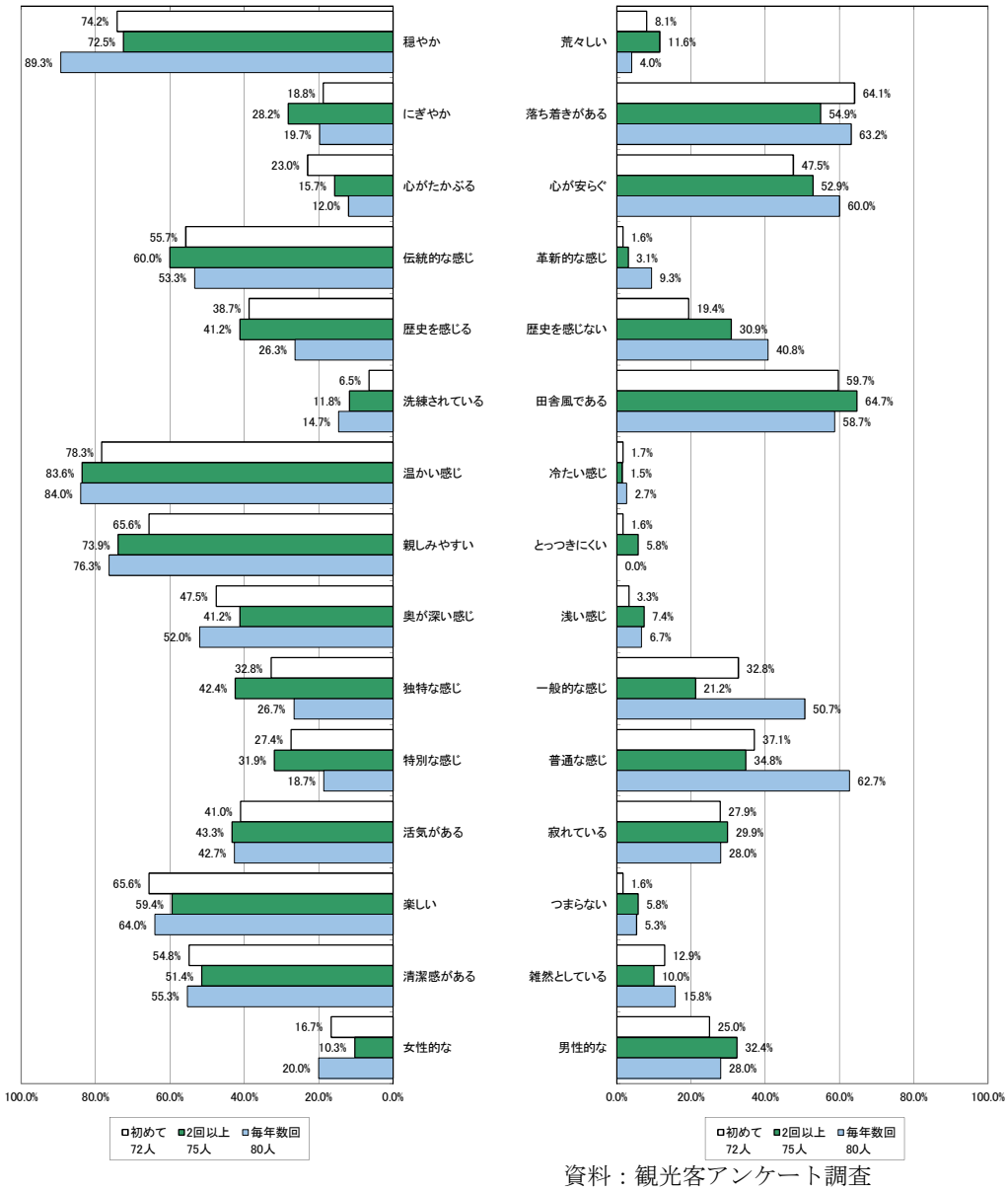
観光客アンケートや地域ブランド調査の結果からは、大船渡は、三陸で海の幸がおいしい場所というイメージが定着していることがうかがわれる。

実際に訪れている人のイメージは、「穏やか」、「落ち着きがある」、「心が安らぐ」などのゆったりとした雰囲気に関わる印象、「温かい感じ」、「親しみやすい」などの接しやすさに関わる印象が高くなっている。

風景に関する印象としては、「田舎風である」、「伝統的な感じ」が高くなっている。その一方で、「一般的な感じ」も高くなっている。

また、２回以上大船渡を訪れている人の印象は、初めて来た人よりも「親しみやすい」が高いものの、一方で「楽しい」、「清潔感がある」が低くなっている。

図６　大船渡のイメージ



資料：観光客アンケート調査
（平成 25 年 10・11 月及び平成 26 年 5 月に市内観光施設にて観光客を対象に実施）

（３） 大船渡観光の魅力

大船渡の観光の魅力は、以下のとおりと考えられる。

① 豊かな食文化

ア） 豊かな海の幸

・変化に富んだリアス式海岸で、世界有数の三陸漁場があることから、サンマ、カツオ、サケ・マスなどの豊かな海の幸を味わうことができる。また、養殖漁業や栽培漁業が盛んでワカメ、カキ、ホタテ、アワビ、ホヤ、ウニなど、一年を通して様々な海の幸を味わうことができる。
・特に、吉浜産の乾燥アワビ「キッピンアワビ」は、古来より高級食材として珍重されている。

イ） 海の幸、山の幸を活かした郷土食

・海の幸、山の幸といった多様な食材を活かした、サンマのすり身汁、ドンコ汁等、その土地ならではの多様な郷土食がある。
・アイナメ、カレイ、イカ、ホタテ、ホヤなどの地魚等を食する浜の食文化が根付いている。
・大船渡に水揚げされた新鮮なサンマを使い、各店で工夫を凝らした「大船渡さんまら～めん」がある。

② 変化に富む自然・景観

ア） 三陸海岸特有のダイナミックな自然

・三陸海岸特有の海岸地形、景観を楽しむことができる。「三陸復興国立公園」は、陸地の沈水によってできた日本最大規模のリアス式海岸で、外洋に長く突き出た半島や岬、これらに抱かれた穏やかな湾や入江で形成されている。
・その中でも碁石海岸は、奇岩や島、洞穴などが点在し、約６㎞の海岸線は「国の名勝・天然記念物」に指定されているほか、「日本の渚百選」、「日本の音風景 100 選」などにも選定されている。
・五葉山や今出山、夏虫山は、ニホンジカをはじめ、カモシカ、ツキノワグマ、ニホンザル、イヌワシ、フクロウなどの動物が生息しているほか、ツツジやシャクナゲをはじめとした貴重な植物を見ることができる。
・綾里崎、首崎、大窪渓谷、立石山など、雄大な眺望や景観を楽しめる場所がある。

穴通磯

碁石浜

イ） 特有の港湾の景観

・大船渡湾は、湾口が太平洋に向かって南東に開き、それから北折して、陸地に深入した湾である。全長は６km あり、湾内の幅が最も広いところで２km、周囲は丘陵等で囲まれ、常に波風を防いでいる天然の良港である。慶長 16 年（1611 年）スペインの探検家、セバスチャン・ビスカイノが当地を探検したおり、湾を讃え「サン・アンドレス湾」と名づけたと言われている。

・大船渡湾は、昭和 34 年国の「重要港湾」に指定されて以降、岩手県の物流拠点の一翼を担っている。東日本大震災により港湾施設が大きな被害を受け国際貿易コンテナ定期航路が休止となったが、平成 25 年 9 月には、国際フィーダーコンテナ定期航路が開設された。このため、大型客船や大型貨物船、漁船等の多様な船舶が航行する様子を見ることができる。

・一方、湾上からみた大船渡は、海沿いの市街地とその背後の丘陵地の緑の斜面からなる魅力的な景観を呈している。

③ 隠れたる気仙の歴史・文化

ア） 知る人ぞ知る気仙の歴史を伝える歴史・文化

・大船渡湾岸には、国指定史跡となっている蛸ノ浦貝塚、下船渡貝塚、大洞貝塚など多くの貝塚がある。これらの貝塚からは、鹿角製の釣針やモリなどの漁具、アサリやカキ、ホタテなどの貝殻のほか、マグロ、ブリ、カツオなどの魚の骨も発見され、当時の海の豊かさを今に伝えている。

・気仙地域には平泉の黄金文化を支えた金山が点在しており、大船渡にも今出山金山等があったと伝えられている。

・国指定重要無形民俗文化財の「吉浜のスネカ」、県指定無形民俗文化財の「浦浜念仏剣舞」や「門中組虎舞」など、各地域に多様な郷土芸能が継承されている。

・江戸時代より「気仙大工」として名を馳せた大工集団がおり、全国各地に気仙大工の手による建築物がある。大船渡には長安寺、洞雲寺、浄願寺などをはじめとした気仙大工の技術の粋を尽くした建築物がある。
・綾里地区は、気仙大工の巨匠花輪喜久蔵を輩出した地であり、現在でも気仙大工の手による建物がある。
・三陸特有の入母屋で黒瓦屋根の豪壮な住宅が集積した集落が点在している。

長安寺

イ） 心温まる人柄

・陸の孤島といわれる気仙地域には、峠を越えて訪れた来訪者に対して、「まずは落ち着いて」という気持ちであんこもち、うどん等を振る舞う「おちつき」という風習がある。
・観光客アンケート調査で「大船渡を訪れた方の大船渡に対するイメージ」は、「温かい感じ」「親しみやすい」などの接しやすさに関わる印象が高くなっている。みなとまちや浜で暮らす人々の人柄は、交流を行う上で来訪者からみたときの重要な魅力といえる。

④ 津波の教訓を伝える人と暮らし

ア） 復興のシンボル 三陸鉄道南リアス線

・三陸鉄道南リアス線は、東日本大震災では甚大な被害を受けたが、全国各地からの励ましや支援を得て復旧し、震災復興のシンボルとなっている。
・三陸鉄道南リアス線は、地域の足として市民の生活を支えているほか、恋し浜駅では「恋し浜ホタテ」の貝殻が絵馬として使われ、多くの方々が祈願している。
・列車で移動しながら震災時の状況や復旧・復興の状況を説明する「震災学習列車」を運行し、防災意識の向上を図っている。

イ） 津波から身を守る知恵

・吉浜地区は明治三陸沖大津波（1896 年）や昭和三陸沖大津波（1933 年）の教訓から、高台に家を再建するよう促した。これにより、東日本大震災では被害を最小限にとどめることができ「奇跡の集落」と呼ばれている。
・古くから津波に苦しめられてきた三陸地方の教訓である「津波てんでんこ」（自分の責任で早く高台に逃げろの意味）に基づいた防災教育がある。

２．課題

大船渡の観光の課題は、以下のとおりと考えられる。

（１） 食の魅力の向上

① 「食の大船渡」のブランド力を高める取組の推進

・食材を活用した観光振興は全国的に行われており、大船渡の特色を演出するためには、既存食材に加えて、新しい大船渡ブランドの研究・開発が重要な課題である。
・特に、地元の事業者の連携・協力のもと、新しい大船渡ブランドの創出や６次産業化に対応していく気運の醸成が必要である。

② 魅力ある大船渡の観光物産の開発及び販売促進

・三陸ワカメ等の売れ筋商品はあるものの、観光客のニーズに応じた多様なおみやげ品の開発が必要である。また、観光客が立ち寄りたくなるような買物場所の整備が必要である。

（２） 観光資源の魅力の向上

① 砂浜の回復と海水浴場の早期復旧

・夏場のレクリエーションの場として、綾里海水浴場、越喜来浪板海水浴場、吉浜海水浴場があるが、東日本大震災で被災した砂浜の回復状況を勘案しながら早期復旧に向けた検討が必要である。

② 新たな観光資源の魅力の向上

・世界の椿館・碁石や市立博物館といった展示施設は、観光資源として重要な施設であることから、さらなる魅力の向上を検討する必要がある。
・スポーツ・レクリエーション施設は、地域住民が手軽に楽しめる施設であるとともに、観光客を呼び込める重要な機能を有していることから、観光施設としての利活用方策を検討する必要がある。
・長安寺や洞雲寺等は、本市を代表する文化的な資源であることから、観光客の誘致・誘導策を検討する必要がある。

・観光客アンケート調査によると、大船渡の風景の印象は強いものの、観光施設の印象は弱く、魅力的な観光資源となっていないことがうかがわれる。また、小規模な観光資源が市内に点在しているため、まとまりや統一感が形成されてない。このため、魅力ある観光資源として活用していくためには、大船渡全体としての観光コンセプトやテーマを設定することが必要である。
・また、大船渡を訪れている来訪者は、主な目的がドライブと食事で、日帰りが中心となっていることから、滞在型の観光メニューの開発が必要である。

③ 宿泊施設の充実

・震災復興従事者の宿泊により宿泊施設が満室状態となっており、観光旅行者の宿泊が難しい状況となっている。大船渡市内での滞留時間を多く確保するためには、宿泊施設は重要な役割を果たす施設であり、「海岸部」「まちなか」「内陸部（山地）」の立地特性を活用した宿泊施設の確保を検討することが必要である。

（３） 交通アクセスの改善

① 「遠いところ」というイメージの改善

・大船渡は、東北自動車道などの幹線道路網からのアクセスが悪く、また起伏や曲折が多い道路形状等により、「遠いところ」というイメージをもたれている。三陸沿岸道路や東北横断自動車道釜石秋田線の整備を契機として、交通アクセスの改善を図ることが必要である。

② ドライブしやすい案内誘導方策の検討

・観光アンケート調査によると、「道路の案内誘導がわかりにくい」という意見が寄せられている。このため、市内の主要な観光スポットや施設等への案内誘導方策の改善が必要である。

（４） 近隣自治体との差別化と連携の構築

・三陸復興国立公園は、青森県から宮城県に至る広域的な国立公園であるため、近隣市町村との連携を図り、本市への周遊を促進していく必要がある。その中で、食材の食べ方・売り方等、大船渡としての差別化を図ることが必要である。

（５） 知名度の向上・情報発信力の強化

① 観光情報発信力の強化

・パンフレットやホームページ等により大船渡観光のＰＲを実施しているものの、観光地としての知名度が低い状況にある。観光客への情報発信の方法は、インターネットやスマートフォン・タブレット等の普及で、大きく変化していることから、新しい情報発信手段への対応など、観光情報発信力を強化することが必要である。
・同時に、大船渡観光としての統一的なテーマ・コンセプトを設定し、魅力を発信していくことが必要である。
・観光パンフレットの配布場所の周知やパンフレットに掲載する情報の充実など、来訪者に対するきめ細かい情報発信のあり方を検討する必要がある。

② 大船渡のイベント情報の積極的な発信

・復興支援関連イベントとして、さまざまなイベントが開催されているものの、それらのイベント情報が市民や観光客へ十分に届いていない状況にある。イベントは、地域住民や観光客の参加により、賑わいを創出する機会であることから、観光振興策の柱として積極的に情報発信を行っていくことが必要である。

（６） 市民・観光事業者の意識改革

・観光客の大船渡に対するイメージは、「温かい感じ」「親しみやすい」などの接しやすさに関わる印象が高くなっていることから、これらの印象を大切にし、大船渡の観光事業者の施設の衛生管理、電話対応、接客などの基本的なサービス水準の向上を通じて、「おもてなし」の意識をより一層高めることが必要である。

第3章 大船渡観光の基本理念と将来像

１．大船渡観光の売出し方

大船渡観光の現状及び課題を踏まえ、以下のように大船渡観光の売出し方を設定する。

（１） 誰に

① 最も力を入れて取り組む対象者

最も力を入れて取り組む対象者は、これまでも大船渡をよく訪れている岩手県内や東北管内からの来訪者、これに加えて、関東圏の観光客や学生ボランティアに売出すこととする。

これまでも大船渡をよく訪れている岩手県内や東北管内からの来訪者には、大船渡の海の魅力を、「開放的な空間や、子ども連れの家族でも安心して訪れることができ、三世代家族でよい思い出を残すことができるふれあいの場」として売出していくこととする。

関東圏の観光客に対しては、三陸のおいしい食材を地元ならではの味として提供し、三陸のなかでも特に養殖漁業・栽培漁業の食材がおいしい地域として認知されるように取り組むものとする。

学生ボランティアに対しては、交流メニューの拡充やおいしい「食」の提供により、交流人口拡大に向けた足がかりとする。

＜最も力を入れて取り組む対象者＞
○岩手県内の三世代家族　　【目的：ドライブ・食事・景色等】
○岩手県内・東北管内のシニア層（一人旅、夫婦等）　【目的：ドライブ・景色等】
○関東圏のシニア層（夫婦・グループ）　【目的：復興ツーリズム・食事・三陸鉄道等】
○全国の学生ボランティア　　【目的：交流・食事等】

② 次に力を入れて取り組む対象者

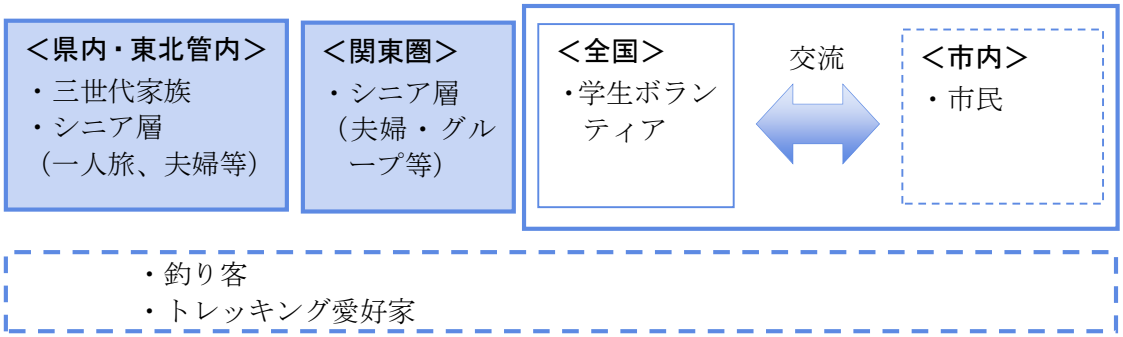
次に力を入れて取り組む対象者は、東北管内の三世代家族を対象とする。家族連れで、１年に１回は訪れてみたい場所として売出していく。

また、これまで釣り目的で大船渡に通っていた釣り客と潮風トレイルの取組を契機としたトレッキング愛好家を設定する。

併せて、関東圏をはじめとする全国のボランティアとの交流先として市民も対象に設定する。

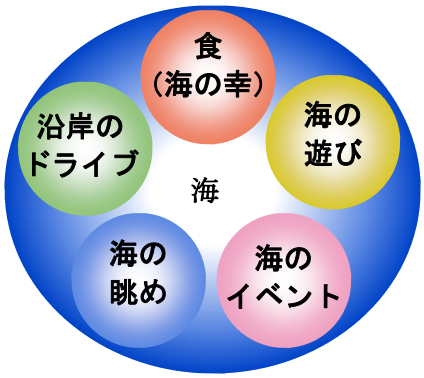
＜次に力を入れて取り組む対象者＞
○東北管内の三世代家族　　【目的：ドライブ・食事・景色等】
○東北管内の釣り客　　【目的：釣り】
○トレッキング愛好家　　【目的：潮風トレイルの走破】
○市民　　【目的：交流】

＜対象者の関連図＞



（２） 何を

大船渡の多彩な海の魅力を核に売出すものとし、海を中心とした豊富な食材による「食（海の幸）」、体験交流のきっかけとなる「海の遊び」・「海のイベント」、豊かな自然・景色のひとつである「海の眺め」、心地よい休憩スポットを楽しめる「沿岸のドライブ」を主な切り口とする。



（３） どのように

大船渡名物といったら「これ」とすぐに連想できる目玉となるご当地料理を開発して売出していく。また、休憩スポットを創出し、三陸の雄大な眺めを落ち着いて見ることができる場所として売出していくものとする。

＜大船渡の楽しみ方＞
○大船渡の海の幸やご当地料理を、浜の文化を活かした空間・演出で味わっていただく。
○四季折々の景色を、地元の人々も和むお気に入りの視点場から気持ちよく眺めていただく。
○漁業体験、釣り、散策などや、夏まつりなどのイベントを通じた交流を楽しんでいただく。

※なお、お土産は、三陸を代表する物産として、三陸沿岸のどこのエリアにも、大船渡産の物産が置かれるような状況を目指す。

２．観光振興で大切にしたいこと（基本理念）

観光のニーズが多様化している現在、一過性の流れに振り回されることなく、長い年月をかけて大船渡の真の魅力を磨き上げていくために、観光振興において大切にしたいこと（基本理念）を定めるものとする。

江戸時代に「三陸俵物」のブランド品として扱われていた歴史を背景に、漁師が生き生きと暮らしてきた「浜」から水揚げされる海の恵みを、現代の新しい製法・保存方法を活かして『「三陸物」発祥の地』として再興させ、おいしい山海の幸と「ゆたかな」海、その恩恵を受けた暮らしから醸し出される「ゆっくり」「ゆったり」した穏やかなふるさと、そして、遠路はるばる大船渡を訪れる来訪者を温かい気持ちで迎え入れる風習（おちつき）を「自然体で表現する」ことで観光振興を進めるものとする。

■観光振興で大切にしたいこと

～「三陸物」発祥の地
「ゆたかな」海 と「ゆっくり」「ゆったり」したふるさと ～

「三陸俵物」：干鮑〔あわび〕・煎海鼠〔いりこ〕・鱶鰭〔ふかひれ〕など三陸産の海産物を俵に詰めて輸送したことの呼称
「三陸物」　：三陸（青森、岩手、宮城など）沿岸で水揚げされる海産物

３．観光振興の将来像

（１） 観光振興の将来像

観光振興で大切にしたいことに基づき、大船渡では、「食べる、遊ぶ」に着目し、三陸の幸を堪能し、古くからの海や山の暮らしの中で培われた文化にふれることができる土地、一度は訪れてみたいと思われる土地となることを目指すものとする。

大船渡を知らずして三陸の文化を語り尽くせない、気仙地域を知らずして三陸を語ることはできないといわれるような、三陸・気仙地域の核となることを目指すものとする。

また、「海」に着目し、貴重な地形・地質から形成される変化に富む海の眺めや、海の遊びを通して大船渡を体感することにより魅力を高めていくものとする。

さらに、温暖な気候や優しい人柄なども大船渡の特徴であるとともに、平泉文化を支えた産金地帯としての歴史、太平洋沿岸における実取りヤブツバキの北限であり、重要な油脂の原料として活用していたツバキの文化など、奥行きある文化も大船渡の特徴であることから、これらを楽しめる環境を形成していくものとする。

このほか、３度の大津波を体験した地域で海と共に暮らしてきた文化や継承されている教訓、復興過程の様子なども、大船渡を訪れる人々に「学び」、「考える」ための機会として提供することで、市民と一体となって後世に伝えていくものとする。

以上のことを踏まえて、観光振興の将来像を以下に示すとおりとする。

■観光振興の将来像

～「心地よい海」「山海の幸」「奥行きある文化」
が楽しめるまち　大船渡　～

雄々しさと穏やかさを兼ね備えたゆたかな海の眺めと、食通も喜ぶおいしい山海の幸、気仙地域として交易を通じて海や背後の山とともに生きてきた奥行きある文化が、穏やかで優しい人々とのふれあいにより楽しめるまちを目指す。

（２） 観光地形成の面的な展開

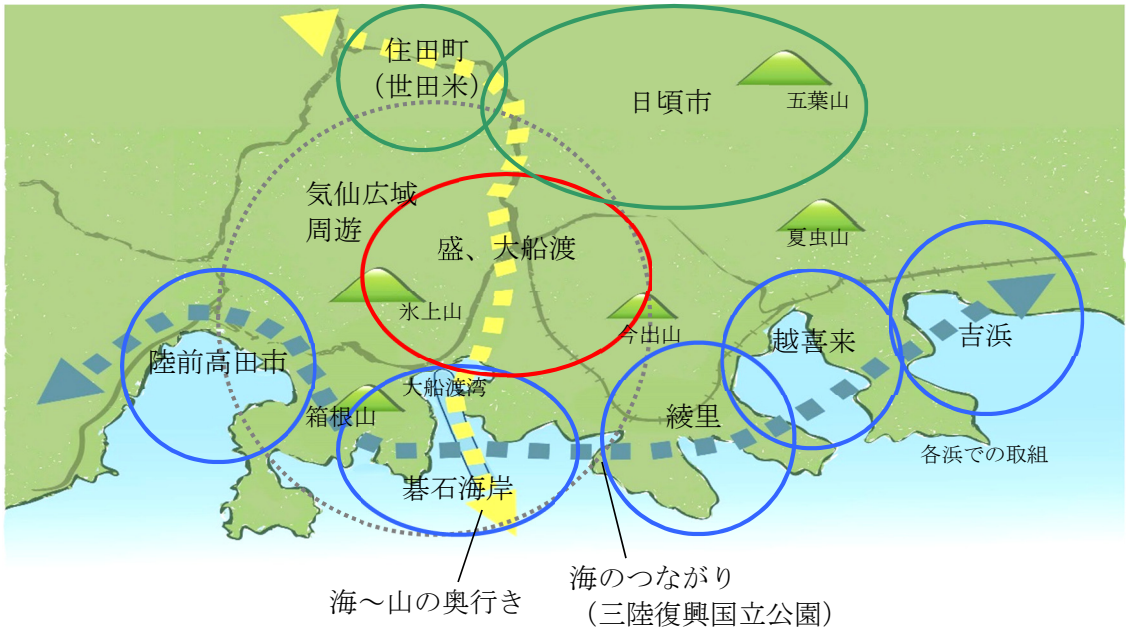
観光振興の将来像の実現に向けた取組の面的な展開として、次のような考え方で主要観光エリアを構築していくものとする。

大船渡市は、沈降型のリアス式海岸で海と山が近接した内湾環境にあり、海の食材、山の食材が調達しやすい環境にある。三陸沿岸の豊かな海の文化のほかに、日頃市町では里山資源が良好な状態で残っている。また、盛町は、海の文化、山の文化が交流する宿場町として発展し、明治以降は、気仙地域の中心的な役割を担ってきた。

三陸沿岸は、リアス式海岸の良好な景観と新鮮な海の食材が豊富なことが魅力となっているため、海の食材だけによる食の開発は差別化しにくいと考えられる。

そこで、大船渡市の立地と文化に着目して、海と山の食文化の融合により魅力ある食を掘り起こし、独自の観光資源として磨き上げて、大船渡まで来なければ食べることができない資源とし誘客に結びつけていくものとする。

また、大船渡の観光資源は点在していることから、周遊性の創出が課題となっている。このため、各浜の取組などを活かして主要な観光地点にご当地お食事スポットなどを創造し、周遊の動機づけとしていくものとする。



主要観光エリアとつながりの概念図

（３） 基本方針

観光振興の将来像の実現に向けた６つの基本方針を以下に示す。

基本方針１：海と山の食文化に根ざした「食」の魅力創造

大船渡の海や山の恵み、岩手内陸との交易から発達した食文化を地域資源として捉え直し、多彩な海と山の味を活かしたご当地料理を磨き上げるとともに、地元に来ないと食べることができない魚食グルメの開発を行い、これらを味わう機会を増やすことにより、海と山の食文化に根ざした魅力創造を行う。

基本方針２：ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発

既存の観光資源と復興を契機として新たに創出される観光資源を活かして、「岩手に来たら一度は寄ってみたい」「三陸沿岸に来たらぜひ足を運びたい」と思われる観光地を目指し、観光客をひきつける観光資源の開発に取り組む。また、ゆっくり滞在できる観光地を目指し、浜の人々とのふれあい・交流機会を創出する。

基本方針３：市内観光資源の魅力あるネットワーク化の推進

大船渡市内の「食」と観光資源を大船渡、気仙地域のストーリーでつなぐことにより、魅力あふれる観光ネットワークを構築し、周遊しやすい環境を形成する。

基本方針４：三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上

気仙地域はもとより、平泉、三陸沿岸と連携することにより、大船渡の素朴な魅力を際立たせて、誘客と立ち寄り率の向上を目指す。

基本方針５：大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進

物産展や都市間交流および各種キャンペーン活動等により、大船渡の魅力を多面的に発信するとともに、実際に大船渡に来た観光客に対して、大船渡の魅力を十分に伝えることができる取組を推進する。

基本方針６：古来からの風習を大切にしたおもてなしの心の育成と実践

古来からの気仙地域の良き風習である「おちつき」の精神を現代に活かして、おもてなしの心を育成するとともに、実践できる人々を増やすことを目指す。

第4章 具体施策の展開

1．施策の体系

大船渡市観光ビジョンの将来像の実現に向けて、取り組む施策の体系は次のとおりとする。

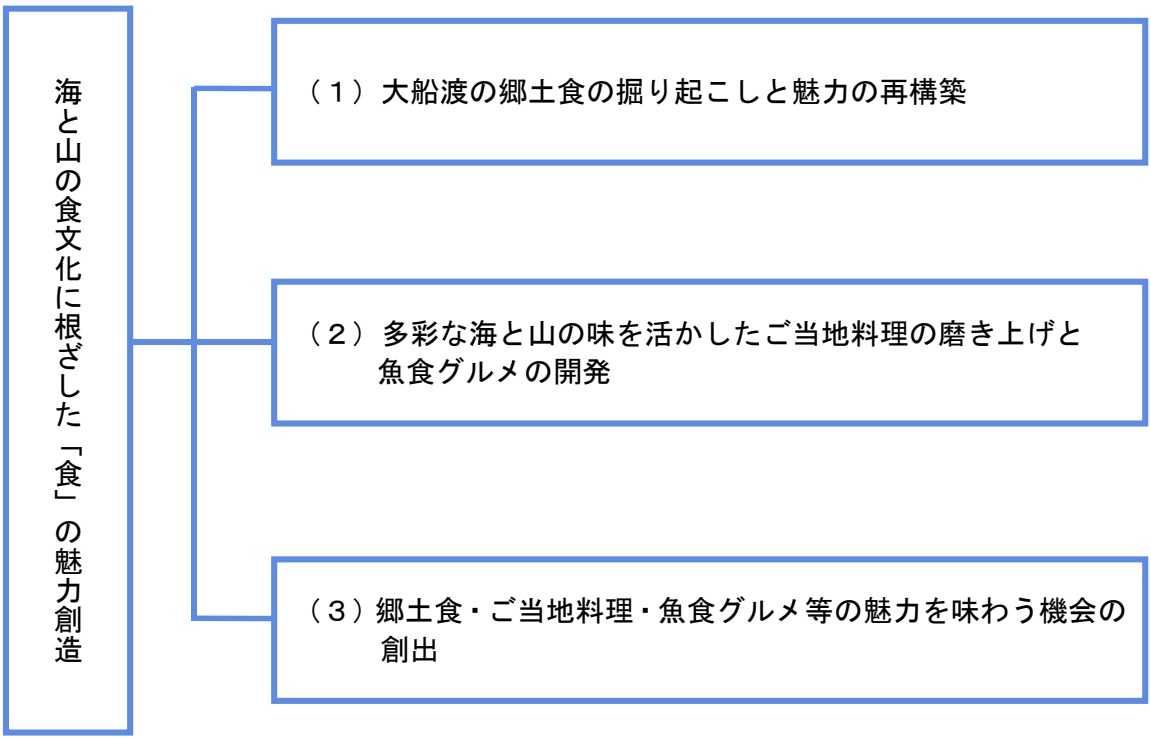
大切にしたいこと	将来像	基本方針	具体施策
「三陸物」発祥の地　「ゆたかな」海　と　「ゆっくり」「ゆったり」したふるさと	「心地よい海」　「山海の幸」　「奥行きある文化」　が楽しめるまち　大船渡	**1．海と山の食文化に根ざした「食」の魅力創造** 大船渡の海や山の恵み、岩手内陸との交易から発達した食文化を地域資源として捉え直し、多彩な海と山の味を活かしたご当地料理を磨き上げるとともに、地元に来ないと食べることができない魚食グルメの開発を行い、これらを味わう機会を増やすことにより、海と山の食文化に根ざした魅力創造を行う。	(1)　大船渡の郷土食の掘り起こしと魅力の再構築 (2)　多彩な海と山の味を活かしたご当地料理の磨き上げと魚食グルメの開発 (3)　郷土食・ご当地料理・魚食グルメ等の魅力を味わう機会の創出
		2．ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発 既存の観光資源と復興を契機として新たに創出される観光資源を活かして、「岩手に来たら一度は寄ってみたい」「三陸沿岸に来たらぜひ足を運びたい」と思われる観光地を目指し、観光客をひきつける観光資源の開発に取り組む。また、ゆっくり滞在できる観光地を目指し、浜の人々とのふれあい・交流機会を創出する。	(1)　三陸を感じる漁業体験メニューと沿岸農業体験メニューの再興と充実 (2)　三陸復興国立公園を代表する景勝地にふさわしい碁石海岸の魅力づくり (3)　穏やかな海・五葉山とその周辺の山々・北限の椿等の魅力の再生・向上 (4)　震災遺構の活用と震災からの学びの伝承 (5)　ふるさとの誇りを市民と観光客が共有する郷土芸能の活用検討 (6)　市民交流に結びつく地場産業と連携した観光資源の形成 (7)　「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」の推進 (8)　リアス式海岸の魅力を満喫する大型客船へのおもてなし
		3．市内観光資源の魅力あるネットワーク化の推進 大船渡市内の「食」と観光資源を大船渡、気仙地域のストーリーでつなぐことにより、魅力あふれる観光ネットワークを構築し、周遊しやすい環境を形成する。	(1)　雄大な景色と三陸文化の隠れた見どころを周遊するきっかけづくり (2)　大船渡観光が楽しめるサービスメニューの研究 (3)　「遠い」というイメージを改善し、観光交流を促進する交通アクセスの整備 (4)　周遊ルートや視点場等の魅力を伝えるサイン整備 (5)　みちのく潮風トレイルの取組を活かした地域内連携づくり
		4．三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上 気仙地域はもとより、平泉、三陸沿岸と連携することにより、大船渡の素朴な魅力を際立たせて、誘客と立ち寄り率の向上を目指す。	(1)　気仙地域自治体等との連携による魅力の再発見 (2)　三陸復興国立公園におけるソフト展開との連携 (3)　三陸ジオパークの取組をきっかけとした知名度向上 (4)　世界文化遺産「平泉」との連携による大船渡の独自性の再構築 (5)　フィルムコミッションの展開による岩手内陸の観光地と連携した大船渡のイメージ向上
		5．大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進 物産展や都市間交流および各種キャンペーン活動等により、大船渡の魅力を多面的に発信するとともに、実際に大船渡に来た観光客に対して、大船渡の魅力を十分に伝えることができる取組を推進する。	(1)　大船渡を代表する風景の再点検による新たな魅力の発信 (2)　三陸・大船渡の顔となる公式ホームページの拡充及び観光案内マップの充実 (3)　既存イベントと復興関連イベントの戦略的な共同展開による誘客力の向上 (4)　海の幸と三陸鉄道（南リアス線）の知名度を活かしたキャンペーンの展開 (5)　首都圏への特産品の販路拡大と「食」を通じた大船渡の魅力の発信 (6)　銀河連邦や被災地支援自治体との都市間交流による大船渡の魅力の伝達 (7)　イベントやモニターツアー等を活用した観光客の意識調査
		6．古来からの風習を大切にしたおもてなしの心の育成と実践 古来からの気仙地域の良き風習である「おちつき」の精神を現代に活かして、おもてなしの心を育成するとともに、実践できる人々を増やすことを目指す。	(1)　おもてなしができる市民・事業者の意識啓発と実践の促進 (2)　大船渡の観光振興を担う人材の育成 (3)　復興支援者との交流の継続による大船渡ファンの獲得 (4)　外国人観光客の来訪に備えた受入れ態勢の準備

２．各種施策

基本方針１　海と山の食文化に根ざした「食」の魅力創造

大船渡の海や山の恵み、岩手内陸との交易から発達した食文化を地域資源として捉え直し、多彩な海と山の味を活かしたご当地料理を磨き上げるとともに、地元に来ないと食べることができない魚食グルメの開発を行い、これらを味わう機会を増やすことにより、海と山の食文化に根ざした魅力創造を行う。

＜基本方針＞　　＜具体施策＞



（１） 大船渡の郷土食の掘り起こしと魅力の再構築

大船渡には、遠方から訪れた者に対し「まずは落ち着いて」という気持ちから、あんこもち・うどん等を振る舞う「おちつき」という風習がある。これらの風習を受け継ぎ、観光客が大船渡ならではの「食」を楽しめるよう郷土食を掘り起こすとともに、これまで開発・販売してきた「椿寿（ちんじゅ）料理・椿寿（ちんじゅ）弁当」の知見を活かして、観光客等へ提供しやすい郷土食として魅力の再構築に取り組む。

＜主な取組＞

○郷土食の掘り起こし

観光客が大船渡ならではの「食」を楽しめるよう、かまもち・なべやき・きびだんご・サンマのすり身汁などの各浜や集落に伝わる郷土食や、祭り・盆正月等に食べる行事食等の掘り起こしを推進する。

○郷土食の魅力の再構築

郷土食や新鮮でおいしい三陸の魚介類は、ビタミンやミネラルを多く含む天然の「薬膳」といえる食材であることから「椿寿（ちんじゅ）料理・椿寿（ちんじゅ）弁当」を開発・販売してきた知見を活かして、観光客等へ提供しやすい新しい魅力を兼ね備えた「食」として再構築する。

かまもち

きびだんご

さんまのすり身汁

出典：いわての生活文化（郷土料理集）
岩手県農林水産部農業普及技術課提供

（２） 多彩な海と山の味を活かしたご当地料理の磨き上げと魚食グルメの開発

大船渡の「食」の魅力である海の幸は、大船渡を訪れる県外の方にとって最も関心が高いことから、常に新しい海鮮料理が開発される環境を整えることが必要である。

そこで、多彩な海と山の味を用いたご当地料理の磨き上げと魚食グルメの開発を行う。さらに、これらの取組を通じて『「三陸物」発祥の地』としての特産品の開発を進める。

これまで開発・販売してきた「大船渡さんまら～めん」は、今後も一層の磨き上げに努め、大船渡を代表する「食」としての定着を図る。

＜主な取組＞

○食べ歩きによる市内飲食店メニューの情報収集や学生等からの海鮮料理アイディアレシピ・食材の募集

市内飲食店の看板メニューの食べ歩きにより、「食」の開発に関する情報を収集するとともに、学生や一般からの地元素材を用いたアイディアレシピの募集、これまで食材とされなかったイサダや海藻類等の活用等、多様なアイディアの募集により、商品化に役立つ情報を収集する。

○海と山の文化の融合による大船渡独自の「食」の開発に向けた共同開発の場の創出

一般社団法人大船渡市観光物産協会、漁業者、水産加工業者、食品製造業者、商業者等、異業種による共同開発の場の創出を支援し、飲食店や宿泊施設等で観光客に提供できる大船渡ならではのアイナメ・カレイ・ホヤ等の地魚等を活用したご当地料理の検討を行う。

また、山の幸として山菜・小枝柿・しいたけ・きびなどを活用した山の味覚も楽しめる料理の検討を行い、海と山の文化を融合させた「食」の開発に取り組む。

さらに、大船渡に水揚げされた新鮮なサンマを使用した「大船渡さんまら～めん」の取組を拡充するとともに、サンマを利用した新メニューの開発も促進する。

○大船渡の水産物を使った魚食グルメの開発と『「三陸物」発祥の地』を自負する特産品の開発

和食離れ、魚食離れが進んだ都市部に、魚中心の食文化がある大船渡から、シェフとのコラボレーションにより、都市部で暮らす人のライフスタイルと味覚にあった洋食ベースの魚食グルメを加工品やお惣菜にして提供することを検討する。また、グルメコンテストなどの実施を通じておいしい魚食グルメのブランドを街ぐるみで作り上げ、新しい魚の食べ方を検討する。

これらの取組を通して、多彩な浜の味を活かした『「三陸物」発祥の地』としての特産品の開発に取り組む。

（３） 郷土食・ご当地料理・魚食グルメ等の魅力を味わう機会の創出

大船渡の「食」を地元住民から観光客など多くの人々に知ってもらうために、郷土食、ご当地料理、魚食グルメ等の多様な大船渡の食を味わうことができる機会を創出する。

＜主な取組＞

○イベントやお祭りを利用した味わう機会の創出

「三陸・大船渡夏まつり」や「浜一番まつり」等のイベントに合わせて、各地区の郷土食や新たに開発したご当地料理、及び魚食グルメ等、旬の食材を味わえる機会を創出する。また、民間事業者主体の「水産関係のお祭り」においても、このような取組の促進を検討する。

○大船渡の多彩な「食」のシンボルスポットの創造

「サンマだけではない多彩な海産物」、「海の景色や体験」、「温かな人とのふれあい」など、大船渡の魅力をさらに引き出し、海と山の「食」の魅力を堪能でき、大船渡を訪れたら必ず立ち寄るようなシンボルスポット（食べる所、買う所）の創造を促進する。

海の幸を用いたご当地料理イメージ

食に関わるイベントイメージ

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
1．海と山の食文化に根ざした「食」の魅力創造									
（1）大船渡の郷土食の掘り起こしと魅力の再構築									
郷土食の掘り起こし	━	━		◎	◎	◎	○	○	商業観光課
郷土食の魅力の再構築			━	◎	◎	◎	○	○	商業観光課
（2）多彩な海と山の味を活かしたご当地料理の磨き上げと魚食グルメの開発									
食べ歩きによる市内飲食店メニューの情報収集や学生等からの海鮮料理アイディアレシピ・食材の募集	━	━		◎	◎	◎	○	○	商業観光課
海と山の文化の融合による大船渡独自の「食」の開発に向けた共同開発の場の創出	━	━		◎	◎	◎	◎	○	商業観光課
大船渡の水産物を使った魚食グルメの開発と『「三陸物」発祥の地』を自負する特産品の開発	━	━	━	◎	◎	◎	◎	○	商業観光課 起業支援室
（3）郷土食・ご当地料理・魚食グルメ等の魅力を味わう機会の創出									
イベントやお祭りを利用した味わう機会の創出	━	━		◎	◎	◎	◎	－	商業観光課
大船渡の多彩な「食」のシンボルスポットの創造		━	━	◎	◎	◎	◎	－	大船渡駅周辺整備室 商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

基本方針２　ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発

既存の観光資源と復興を契機として新たに創出される観光資源を活かして、「岩手に来たら一度は寄ってみたい」「三陸沿岸に来たらぜひ足を運びたい」と思われる観光地を目指し、観光客をひきつける観光資源の開発に取り組む。また、ゆっくり滞在できる観光地を目指し、浜の人々とのふれあい・交流機会を創出する。

＜基本方針＞　　＜具体施策＞

ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発

- （１）三陸を感じる漁業体験メニューと沿岸農業体験メニューの再興と充実
- （２）三陸復興国立公園を代表する景勝地にふさわしい碁石海岸の魅力づくり
- （３）穏やかな海・五葉山とその周辺の山々・北限の椿等の魅力の再生・向上
- （４）震災遺構の活用と震災からの学びの伝承
- （５）ふるさとの誇りを市民と観光客が共有する郷土芸能の活用検討
- （６）市民交流に結びつく地場産業と連携した観光資源の形成
- （７）「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」の推進
- （８）リアス式海岸の魅力を満喫する大型客船へのおもてなし

（１） 三陸を感じる漁業体験メニューと沿岸農業体験メニューの再興と充実

三陸の海のすばらしさとのんびり、ゆったりした浜の環境の魅力を体験できる漁業体験メニューと、浜の背後で営まれている沿岸農業の体験メニューの再興と充実を図る。

＜主な取組＞

○海と山の魅力を体感するブルーツーリズム、グリーンツーリズム等の体験メニューの早期復旧とメニュー提供者の育成

将来的に通過型から滞在型観光への移行を目指し、体験型観光（ブルーツーリズム・グリーンツーリズム）の強化を図る。そのため、震災の影響で休止している体験メニューの早期復旧に取り組む。

また、市民や観光客が気軽に農業体験・漁業体験ができるよう、農林水産業と連携しながら、海と山の豊かな地域資源や耕作放棄地を活用した魅力的な体験・交流型プログラムの開発や体験メニュー提供者の育成・指導を含めた受入れ体制の整備を進める。

ブルーツーリズムイメージ

グリーンツーリズムイメージ

○田舎暮らしの魅力を伝える「健康」、「いやし」の大船渡ライフの開発と豊かな「環境」、「生活」の視点からの体験メニューの開発による宿泊機会の創出

「理想の田舎、癒しの地」をキーワードに、大船渡と他地域との交流人口拡大に向けて、大船渡産水産物の消費地からのホームスティの受入れ等、のんびり、ゆったり、人の温かさにふれることができる宿泊機会の創出を促進する。また、海と山の自然に囲まれた大船渡の良さを活かして「健康」、「いやし」の視点から、のんびりした田舎暮らしを体験できる機会を創出する。

このような土地の「環境」、「生活」、さらには、穏やかな大船渡湾内の環境や珊瑚島に着目した体験メニューを検討する。また、これらの体験メニュー等の総合的な案内窓口の設置等、受入れ体制の整備を図る。

〇農家レストラン、漁師レストラン、カフェ、産直施設等の充実

新鮮な食材を提供する農家レストラン、漁師レストラン、産直施設やゆったり休憩することができるカフェ等の充実を促進する。

〇釣りや狩猟等を活かした体験メニューの構築

海山一体の大船渡ならではの体験メニューが楽しめるよう、海釣りに加えて、渓流釣りや鮎釣り、ニホンジカの狩猟見学などの体験メニューを検討する。

（２） 三陸復興国立公園を代表する景勝地にふさわしい碁石海岸の魅力づくり

大船渡を代表する景勝地である三陸復興国立公園碁石海岸の魅力を高めるため、インフォメーションセンターやキャンプ場における自然体験活動等の観光機能の充実を図る。

＜主な取組＞

〇インフォメーションセンターを活用したジオツアーを含めた体験学習メニューの創造と自然ガイドの育成

碁石海岸を訪れる観光客に対して三陸復興国立公園の自然環境や貴重な地形地質について誰でも興味をもってふれあうことができるように、インフォメーションセンターを活用した体験学習メニューを創造する。

また、碁石海岸はジオサイトとして認定されていることから、迫力ある奇岩の造形美の魅力を楽しく伝えるジオツアーの実施と自然観察や自然体験などを通じ自然や歴史等について解説する自然ガイド（インタープリター）の育成に努める。

自然解説イメージ

〇四季折々の草花を満喫する散策コースの設定とツアーガイドの育成

ニッコウキスゲやハマギクなどの多様な自然環境と、四季折々の草花を満喫できるよう、散策コースのルート設定とツアーガイドの育成を推進する。

ニッコウキスゲ

〇キャンプ活動を通じた子どもの良い思い出となる活動の支援

家族でキャンプをする際に子ども達の良い思い出となるよう、碁石海岸キャンプ場、森林総合利用施設（フレアイランド尾崎岬）等の施設において、潮騒と漁火、豊かな自然等の日常とは異なる環境を活かした自然体験活動の創出を支援する。

碁石海岸キャンプ場

〇飲食施設の復旧・集積の促進

碁石海岸周辺において、飲食施設の復旧や新たな集積を促進するための情報発信に努める。

〇遊歩道改良整備等の促進

碁石海岸の代表的な観光スポットである穴通磯をより多くの人に見てもらうために、駐車場から東屋までの遊歩道改良整備等について国への要望を行う。

（３） 穏やかな海・五葉山とその周辺の山々・北限の椿等の魅力の再生・向上

穏やかな海・五葉山や夏虫山などの山々・北限の椿等に代表される既存観光資源は、大船渡の地域性や魅力を下支えする基本的な観光資源であることから、これらの特色を十分に引き出すことにより魅力の再生・向上を図る。

＜主な取組＞

○海とのふれあいを楽しむ集客施設の復旧と清掃活動の推進、眺めの良い視点場における滞留する仕掛けづくり

観光客の早期の呼び戻しを図るため、被災した観光資源・施設を復旧する。特に、夏場の主要な集客施設であった綾里海水浴場、越喜来浪板海水浴場、吉浜海水浴場は、防潮堤整備の進捗や砂浜の復旧状況を踏まえつつ、シャワーやトイレ等の整備などを含めた今後のあり方について、関係部署と連携して調査検討する。

このほか、海や山がきれいにみえる視点場の発見を推進する。また、視点場に心地良く滞留できるよう、視点場周辺の清掃活動や美化活動を行う。さらに、視点場の見頃の時期や周辺の見どころ等の情報発信を推進する。

海とのふれあいイメージ

○穏やかな海での海洋レクリエーション活動の検討

大船渡湾は、静穏な水面という特徴を持つことから、この特徴を生かした海洋レクリエーション活動のあり方について検討する。

○リアス式海岸が一望できる開放感と自然豊かな山の魅力が同時に楽しめる五葉山や夏虫山などの魅力の発信

五葉山、夏虫山、今出山、大窪山等におけるリアス式海岸が一望できる開放感ある景観、貴重な動植物とふれあえる豊かな自然等、これらの山の魅力を積極的に発信する。また、山の魅力を維持するために、散策路や視点場の清掃活動に取り組む。

五葉山からのリアス式海岸の眺め

夏虫山からの眺め

○「椿の里」の発展的な取組による魅力の向上

大船渡市は、太平洋沿岸の実取りヤブツバキの北限として知られ、市内のいたる所で実取りヤブツバキの自生が見られ「椿の里」と呼ばれていることから、椿を植樹できる場を確保し、市民との協働による「椿の里」を充実させる取組を推進する。

また、耕作放棄地を活用した椿の植栽促進や、出生祝いの記念樹として椿を贈呈する取組を継続するとともに、椿油等の加工品開発の取組を促進する。

このほか、民間事業者と連携して椿スイーツの取組をさらに促進し、ご当地スイーツ化の検討を行う。

椿の実取り体験

椿スイーツ

（４） 震災遺構の活用と震災からの学びの伝承

大船渡を訪れる人々や市民に津波の教訓等を「学び」として伝承していくために、３度の大津波を経験した地域で海とともに暮らしてきた文化を震災遺構と絡めた観光資源化を図るとともに、学習メニューの構築を図る。

＜主な取組＞

○津波石や震災遺構等の活用

復興ツーリズムの動きと合わせて、吉浜の津波石等の震災遺構とそのいわれを継承し、はじめて訪れた人にもしっかりと伝わるように、震災当初から現在までの取組状況を体系的に整理するとともに、明治三陸沖大津波（1896 年）や昭和三陸沖大津波（1933 年）の教訓から、高台に家を再建するよう取り組んできた吉浜地区等や、「津波てんでんこ」（自分の責任で早く高台に逃げろの意味）などの防災教育等、今回の東日本大震災で被害を最小限にとどめることにつながった取組について紹介し、観光資源として役立てることを検討する。

また、これらの資源を活かして震災学習を中心とした教育旅行プログラム等を検討する。

○津波と共生してきた文化と津波の歴史を伝える語り部ガイドの育成

津波と共生してきた文化と津波の歴史をより深く語り伝えるために、語り部ガイドの育成を促進する。

吉浜の津波石

津波伝承館

（５） ふるさとの誇りを市民と観光客が共有する郷土芸能の活用検討

お祭りや郷土芸能がたくさんあることは東北観光の魅力のひとつとなっている。

このため、各地で継承されている郷土芸能をふるさとの誇りとして、観光客に見てもらうことを通じて、担い手が自信をもって継承できるように、市民と観光客が共有できる観光資源として活用することを検討する。

＜主な取組＞

○気仙に根づいた風習を伝える郷土芸能の活用検討

国指定重要無形文化財の吉浜のスネカや、各地区の五年祭、そして、地域に伝わる郷土芸能等を掘り起こし、大船渡の魅力として情報発信する。そして、地元の人や東北の祭りを楽しみに訪れる観光客とのつながりを構築し、ふるさとの誇りの発信に努めながら、観光資源としての活用を検討する。また、郷土芸能が鎮魂の思いや、豊穣への祈願として継承されてきた歴史を学んだり、映像などにより演舞の鑑賞が常時できる展示方法について検討する。

剣舞

獅子踊りイメージ

鹿踊り

○小正月イベントを活用した公募型旅行の企画の検討

吉浜地区の小正月イベントに絡めた民宿でのオプショナルイベントや、一般社団法人大船渡市観光物産協会での公募型旅行の企画について検討する。

民家を訪問するスネカの様子

東海新報社提供

（６） 市民交流に結びつく地場産業と連携した観光資源の形成

現在、民間事業者独自の取組により、工場見学施設等の整備が進められている。また漁業関連施設においても事業者等による各種取組が進められつつある。

そこで、地域の活力を有効活用して大船渡の見どころを増やすために、地場産業と連携した観光資源の形成を検討する。

＜主な取組＞

○民間企業と連携した観光資源の形成

市内の酒造事業者や菓子製造事業者の工場見学、セメント製造工場等の夜景の観光資源化など、地元企業と連携した観光資源の形成を検討する。

○大船渡市魚市場等の機能強化による水産業を核とした魅力の向上

大船渡市魚市場では、展示施設等の交流機能を加えるとともに、駐車場等を活用した市の開催等について検討し、漁業生産活動の拠点だけでなく、水産のまちのシンボルとして魅力の向上を図る。

また、各浜の漁港周辺に飲食や物販、体験等の交流機能を加えることにより、交流拠点としての魅力の向上を図る。

大船渡市魚市場の外観

大船渡市魚市場の展示施設

小石浜での取組の様子

（７） 「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」の推進

市民の生活や買い物、季節の祭事などの情景は、大船渡を訪れる人にとって魅力的なものであるため、「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」を推進する。

＜主な取組＞

○特色ある商業機能の集積による商店街のにぎわい創出

魅力ある商業機能の集積化、商店街を会場に開催される各種イベントへの支援等により、商店街のにぎわいを創出し、まちなか観光の推進を図る。

○伝統ある朝市を大船渡の風物詩として魅力の発信

歴史ある盛町の朝市を、野菜や魚介類、果物など大船渡の旬の食材を購入したり、郷土食を味わったりすることができる、大船渡の風物詩として情報発信する。

○海の魅力を満喫する大船渡のシンボルスポットの形成

大船渡を訪れた人が必ず立ち寄りたくなる大船渡の海の魅力を満喫できるシンボルスポットの形成に向けて、大船渡地区津波復興拠点の整備を推進する。

○「みなとまち」の開放感と「宿場町」の情緒を楽しめるまちなかの回遊性の向上

まちなかと港が近接する立地を活かし、まちなかを訪れた観光客が港の景観や雰囲気を楽しめるように、まちなかと港の回遊性の向上を図る。

朝市の賑わい

大船渡地区津波復興拠点のイメージパース

○駅の待ち時間を有効に楽しんでもらう「まちなか観光」の検討

交通結節点となる盛駅等では、待ち時間を活用してまちなかの散策や買い物を楽しめることができるような案内誘導や物販促進について検討する。

（８） リアス式海岸の魅力を満喫する大型客船へのおもてなし

大船渡港は、旅客船ふ頭としての機能もあり、平成 17 年には「ポート・オブ・ザ・イヤー2004」グランプリ、平成 21 年には「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2008」特別賞を受賞するなど、地元市民を挙げた歓迎体制が魅力となっている港であることから、今後も大型客船へのおもてなしを推進する。

＜主な取組＞

○大型客船の寄港をより魅力的にするソフト展開の検討

大船渡港は、他の港では体験することができない、自然の山並みと山の裾野に寄り添うように分布する住宅地が独特の景観を形成しており、大型客船で湾内に入っていく期待感と港に着岸した際の出迎え等のおもてなしが利用者から好評である。

このため、大型客船の利用者はリピーターが多いことから、大船渡を何度訪れても新しい発見があるように、大船渡港を基点とした近隣の観光地点までの案内やオプショナルツアー等、利用者が満足し友人等に大船渡を勧めたくなるようなソフト展開を検討する。

○外国人が探し求めたという歴史の魅力の発信

「ビスカイノ金銀島探検報告」を著したセバスチャン・ビスカイノが来訪した歴史などを背景として、海から大船渡湾の奥深くへ入港する際の魅力等を情報発信する。

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
2．ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発									
（1）三陸を感じる漁業体験メニューと沿岸農業体験メニューの再興と充実									
海と山の魅力を体感するブルーツーリズム、グリーンツーリズム等の体験メニューの早期復旧とメニュー提供者の育成	―	―		◎	◎	●	◎	◎	商業観光課 農林課 水産課
田舎暮らしの魅力を伝える「健康」、「いやし」の大船渡ライフの開発と豊かな「環境」、「生活」の視点からの体験メニューの開発による宿泊機会の創出		―	―	◎	◎	●	◎	○	商業観光課 農林課 水産課
農家レストラン、漁師レストラン、カフェ、産直施設等の充実		―	―	●	●	●	◎	－	商業観光課 農林課 水産課
釣りや狩猟を活かした体験メニューの構築		―	―	●	●	●	◎	-	商業観光課 農林課 水産課
（2）三陸復興国立公園を代表する景勝地にふさわしい碁石海岸の魅力づくり									
インフォメーションセンターを活用したジオツアーを含めた体験学習メニューの創造と自然ガイドの育成	―	―		◎	◎	－	○	○	商業観光課 生涯学習課
四季折々の草花を満喫する散策コースの設定とツアーガイドの育成	―	―	―	◎	◎	－	○	○	商業観光課
キャンプ活動を通じた子どもの良い思い出となる活動の支援		―	―	◎	◎	－	○	○	商業観光課 農林課
飲食施設の復旧・集積の促進	―	―		◎	●	◎	◎	－	商業観光課
遊歩道改良整備等の促進		―	―	◎	－	－	－	－	商業観光課
（3）穏やかな海・五葉山とその周辺の山々・北限の椿等の魅力の再生・向上									
海とのふれあいを楽しむ集客施設の復旧と清掃活動の推進、眺めの良い視点場における滞留する仕掛けづくり		―	―	◎	◎	○	○	○	商業観光課 農林課
穏やかな海での海洋レクリエーション活動の検討		―	―	◎	◎	○	◎	○	商業観光課
リアス式海岸が一望できる開放感と自然豊かな山の魅力が同時に楽しめる五葉山や夏虫山などの魅力の発信		―	―	◎	◎	○	○	○	商業観光課 農林課
「椿の里」の発展的な取組による魅力の向上		―	―	◎	●	●	○	○	商業観光課 農林課
（4）震災遺構の活用と震災からの学びの伝承									
津波石や震災遺構等の活用		―	―	◎	◎	－	○	○	大船渡駅周辺整備室 商業観光課 生涯学習課
津波と共生してきた文化と津波の歴史を伝える語り部ガイドの育成		―	―	◎	◎	－	○	◎	商業観光課
（5）ふるさとの誇りを市民と観光客が共有する郷土芸能の活用検討									
気仙に根づいた風習を伝える郷土芸能の活用検討		―	―	◎	◎	－	○	◎	商業観光課 生涯学習課
小正月イベントを活用した公募型旅行の企画の検討		―	―	◎	◎	●	○	○	商業観光課 生涯学習課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

● 主な取組の実施時期と推進主体（つづき）

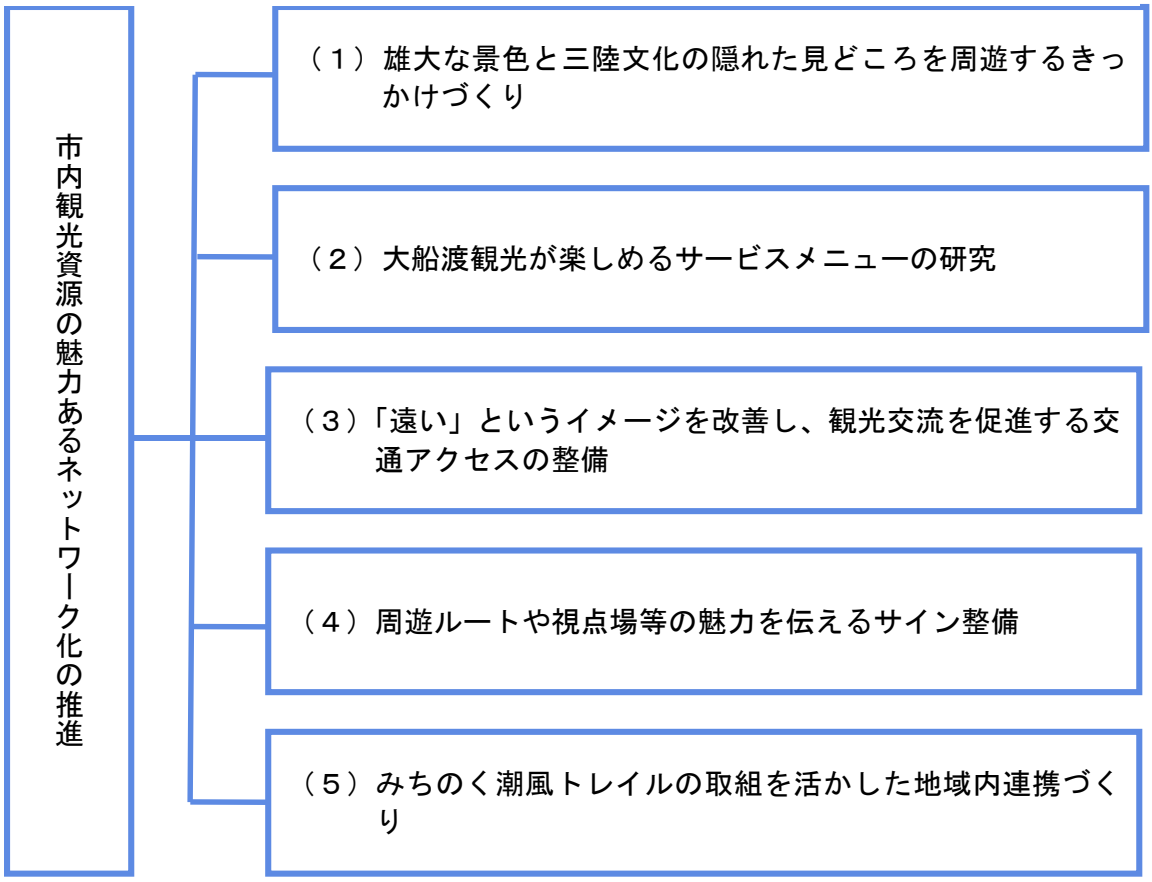
施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
2．ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発									
（6）市民交流に結びつく地場産業と連携した観光資源の形成									
民間企業と連携した観光資源の形成		━	━	◎	◎	●	◎	－	商業観光課
大船渡市魚市場等の機能強化による水産業を核とした魅力の向上		━	━	◎	◎	●	◎	－	商業観光課 水産課
（7）「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」の推進									
特色ある商業機能の集積による商店街のにぎわい創出		━	━	◎	●	◎	◎	－	大船渡駅周辺整備室 商業観光課
伝統ある朝市を大船渡の風物詩として魅力の発信	━	━		●	◎	◎	○	○	商業観光課
海の魅力を満喫する大船渡のシンボルスポットの形成		━	━	◎	●	◎	◎	○	大船渡駅周辺整備室 商業観光課
「みなとまち」の開放感と「宿場町」の情緒を楽しめるまちなかの回遊性の向上		━	━	●	◎	◎	○	○	大船渡駅周辺整備室 商業観光課
駅の待ち時間を有効に楽しんでもらう「まちなか観光」の検討		━	━	●	◎	◎	◎	○	商業観光課
（8）リアス式海岸の魅力を満喫する大型客船へのおもてなし									
大型客船の寄港をより魅力的にするソフト展開の検討	━	━	━	◎	●	○	○	○	港湾経済課
外国人が探し求めたという歴史の魅力の発信		━	━	◎	●	○	○	○	港湾経済課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

基本方針３　市内観光資源の魅力あるネットワーク化の推進

大船渡市内の「食」と観光資源を大船渡、気仙地域のストーリーでつなぐことにより、魅力あふれる観光ネットワークを構築し、周遊しやすい環境を形成する。

＜基本方針＞　　＜具体施策＞



（１） 雄大な景色と三陸文化の隠れた見どころを周遊するきっかけづくり

雄大な景色と三陸文化の隠れた見どころを知って、足を運びやすくするために、公共交通機関の充実や、気持ちよくドライブやツーリングができるルートの構築等により、周遊するきっかけづくりを検討する。

＜主な取組＞

○周遊バスルートの検討と待ち時間を楽しめる空間づくり

観光資源の配置や市内観光周遊コース等を踏まえ、既存の公共交通との連携を図りながら、コミュニティバスの利活用の可能性を検討する。併せて、既存の公共交通からコミュニティバスへ乗り換える際の待ち時間を楽しく過ごすことができる空間づくりを検討する。

待ち時間を楽しめる空間づくりイメージ

○観光タクシーの充実

大船渡の奥深い文化を伝えることができるように、タクシー団体と連携した観光タクシーの案内メニューの充実を促進する。

○ＪＲ大船渡駅周辺地区や三陸鉄道（南リアス線）の駅でのレンタサイクルの導入、地域資源をめでる小さな旅の検討

自家用車利用の観光客にも、まちなか観光がしやすいように、ＪＲ大船渡駅周辺地区などにレンタサイクルの導入を検討する。また、三陸鉄道の駅においてもレンタサイクルの導入を検討する。

三陸鉄道（南リアス線）の各駅で下車した際に、駅周辺の地域資源を見て回り楽しむことができるように、小さな旅の企画等を検討する。

○海の魅力を堪能するドライブルート、ツーリングルートの構築

大船渡の魅力である各浜の景観を気持ちよく堪能できるドライブ及びツーリングルートを構築し、各地域への誘客につながる取組を検討する。

○家族連れで楽しめる大船渡ならではのスタンプラリー等の検討

自動車利用者を対象として、見どころを周遊するきっかけをつくるのために、子どもの関心をひき、家族連れで楽しむことができるスタンプラリー等のメニューについて検討する。

（２） 大船渡観光が楽しめるサービスメニューの研究

大船渡観光が楽しめるストーリー性を考慮して、各資源の組み合わせによる拠点間をつなぐモデルコースの開発を行い、さまざまな楽しみ方が伝わるパンフレットを作成し、モニターツアーを通じてサービスメニューの研究を行う。

＜主な取組＞

○大船渡の観光資源をつなぐ観光モデルコースの開発、体験メニューとタイアップした海上移動を視野に入れたコースの検討

浜の営みや海と山の楽しみ方、気仙大工の歴史、トレッキングなどのストーリー性やテーマ性などにより、観光資源をつないだ周遊コースを検討する。また、一般社団法人大船渡市観光物産協会ホームページで案内している大船渡市観光モデルコースの再検討を行う。

また、大型客船の寄港時のメニューや、小型船舶での対岸への移動等も視野に入れたコースの可能性を検討する。

○モデルコースを楽しく伝えるパンフレットの作成

大船渡の魅力を積極的に発信するために、楽しいデザインのガイドマップや周遊コースを紹介するパンフレット、ホームページの作成を行う。また、観光消費につながるよう、大船渡商工会議所、一般社団法人大船渡市観光物産協会、民間企業等と連携してクーポン券や、お得情報の付いたパンフレットの作成に取り組む。

○モニターツアーの実施と参加者との交流の促進

より良い周遊コースとするために、モニターツアー等による磨き上げるしくみを検討する。また、単発のモニターツアーに止まらずに参加者との交流の促進に取り組む。

モニターツアーイメージ

環境省提供

○主要拠点における情報通信環境の強化

主要な観光拠点を訪れた観光客に大船渡の魅力を発信してもらうために、碁石海岸などの大船渡を代表する主要な観光拠点において、Wi-Fi 等の情報通信環境の強化を検討する。

（３） 「遠い」というイメージを改善し、観光交流を促進する交通アクセスの整備

大船渡は、東北自動車道などの幹線道路網からのアクセスが悪く、また起伏や曲折が多い道路形状等により、「遠いところ」というイメージをもたれているため、幹線道路網等の整備促進により交通アクセスの改善を図る。

ＪＲ大船渡線については、鉄路での復旧に向けて引き続き取組を進めるとともにＢＲＴ（バス高速輸送システム　※以下ＢＲＴと記述する）利用者の利便性の向上に努める。

＜主な取組＞

○交通アクセスの整備

円滑な交通と安全性を確保するとともに、主要な観光地の連携を促進するため、三陸沿岸道路早期全線開通、市街地に通じる（仮称）大船渡中央インターチェンジの整備について、国への要望を行う。また、東北横断自動車道に接続する新ルートの早期整備、一般国道 107 号及び 397 号の改良整備、主要地方道大船渡綾里三陸線及び大船渡広田陸前高田線の新ルートの早期整備に向けて、県への要望を行う。

このほか、主要な観光資源をつなぐ市道の拡幅整備等について検討する。さらに、ＪＲ大船渡線の鉄路復旧やＢＲＴの改善について、国とＪＲ東日本への要望を行う。

（４） 周遊ルートや視点場等の魅力を伝えるサイン整備

周遊ルートや視点場の命名を行うとともに、それらを周知する名称看板等のサイン整備を行うことで、地域資源の魅力の向上を図る。

＜主な取組＞

○周遊ルートと視点場の命名

観光客に興味をもって周遊してもらうために、周遊ルートや視点場に対して「塩の道」、「浜街道」、「お魚街道」等のオリジナルの命名を検討する。

○復興過程・暫定整備を考慮したサイン等観光案内の推進

復興過程を踏まえて、撤去可能な簡易の誘導標識や案内板等の暫定的な整備による観光案内機能の強化を推進する。特に、碁石海岸等の主要な観光拠点は、優先的に整備を推進する。

○観光サインの検討

主要なドライブ・ツーリングルートや散策ルート及び良好な視点場に、誘導標識や説明板等のサインの整備を検討する。

（５） みちのく潮風トレイルの取組を活かした地域内連携づくり

みちのく潮風トレイルの整備と合わせて、市民と利用者との交流が生まれる仕掛けづくりや、休憩・移動の基点となる地区周辺の観光資源との連携により、大船渡の地域内連携づくりを推進する。

＜主な取組＞

○みちのく潮風トレイルルートにおける休憩場所の整備と地区拠点を中心とした周遊ルートの設定

みちのく潮風トレイル（青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの太平洋沿岸）における「ロングトレイル」のルート設定と連携して、「歩く旅」や「自転車の旅」が楽しめるように、視点場整備を周辺の観光資源、飲食施設等と連携させて検討する。

市内の各集落においては地域の歴史性を考慮して既存資源と連携した賑わいあるルート設定の検討を行う。

また、各集落をつなぐルート整備と合わせて、市民と利用者との交流が深まるように、市民参加型による休憩場所の整備を検討するとともに、主要な休憩スポットを基点としてルート近傍の観光資源を結びつけた周遊コースを検討する。

「自転車の旅」の機運を高めるため、「ツール・ド・三陸」等のイベントを通して、サイクリングの楽しみを発信する。

ツール・ド・三陸の様子

ツール・ド・三陸提供

○自転車、ＪＲ大船渡線ＢＲＴ、三陸鉄道、バス、観光船等と連携した複合的な交通手段の活用

みちのく潮風トレイルの多様な楽しみ方ができるように、自転車、ＪＲ大船渡線ＢＲＴ、三陸鉄道、バスや観光船とも連携した各拠点の移動手段を検討する。

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
３．市内観光資源の魅力あるネットワーク化の推進									
（１）雄大な景色と三陸文化の隠れた見どころを周遊するきっかけづくり									
周遊バスルートの検討と待ち時間を楽しめる空間づくり	―	―	―	◎	●	●	●	－	商業観光課
観光タクシーの充実	―	―	―	●	◎	●	◎	－	商業観光課
ＪＲ大船渡駅周辺地区や三陸鉄道（南リアス線）の駅でのレンタサイクルの導入、地域資源をめでる小さな旅の検討	―	―		◎	◎	－	○	○	商業観光課
海の魅力を堪能するドライブルート、ツーリングルートの構築	―	―		◎	◎	●	－	－	商業観光課
家族連れで楽しめる大船渡ならではのスタンプラリー等の検討	―	―		●	◎	◎	○	－	商業観光課
（２）大船渡観光が楽しめるサービスメニューの研究									
大船渡の観光資源をつなぐ観光モデルコースの開発、体験メニューとタイアップした海上移動を視野に入れたコースの検討		―	―	◎	◎	●	○	○	商業観光課
モデルコースを楽しく伝えるパンフレットの作成		―		◎	◎	●	－	－	商業観光課
モニターツアーの実施と参加者との交流の促進		―	―	◎	◎	●	○	○	商業観光課
主要拠点における情報通信環境の強化		―	―	◎	－	－	－	－	商業観光課
（３）「遠い」というイメージを改善し、観光交流を促進する交通アクセスの整備									
交通アクセスの整備	―	―	―	●	－	－	－	－	建設課
（４）周遊ルートや視点場等の魅力を伝えるサイン整備									
周遊ルートと視点場の命名	―	―		◎	◎	○	○	○	商業観光課
復興過程・暫定整備を考慮したサイン等観光案内の推進	―	―		◎	●	－	－	－	商業観光課
観光サインの検討			―	◎	●	－	－	－	商業観光課
（５）みちのく潮風トレイルの取組を活かした地域内連携づくり									
みちのく潮風トレイルルートにおける休憩場所の整備と地区拠点を中心とした周遊ルートの設定	―	―		◎	◎	●	○	○	商業観光課
自転車、ＪＲ大船渡線ＢＲＴ、三陸鉄道、バス、観光船等と連携した複合的な交通手段の活用		―	―	◎	◎	－	◎	－	商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

基本方針４　三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上

気仙地域はもとより、平泉、三陸沿岸と連携することにより、大船渡の素朴な魅力を際立たせて、誘客と立ち寄り率の向上を目指す。

＜基本方針＞

三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上

＜具体施策＞

（１）気仙地域自治体等との連携による魅力の再発見

（２）三陸復興国立公園におけるソフト展開との連携

（３）三陸ジオパークの取組をきっかけとした知名度向上

（４）世界文化遺産「平泉」との連携による大船渡の独自性の再構築

（５）フィルムコミッションの展開による岩手内陸の観光地と連携した大船渡のイメージ向上

（１） 気仙地域自治体等との連携による魅力の再発見

気仙地域自治体や「ケセンきらめき大学」の取組との連携により、温暖な気候と海、山、川の豊富な自然、古くから金山によって栄え、世界文化遺産「平泉」の黄金文化を支えた歴史など、気仙地域の魅力を再発見することで、大船渡の魅力を高めることに役立てていくこととする。

＜主な取組＞

〇三陸・けせん観光協議会との連携

気仙２市１町等で構成する三陸・けせん観光協議会と連携して、引き続き気仙地域の魅力を高める取組を推進する。

〇ケセンきらめき大学の取組との連携

「ケセンきらめき大学」の取組を活かして、陸前高田市、住田町と連携した観光資源の魅力の向上を促進する。

（２） 三陸復興国立公園におけるソフト展開との連携

三陸復興国立公園の自然とのふれあい活動などのソフト展開と連携するとともに、みちのく潮風トレイルの整備と合わせて三陸沿岸における大船渡の魅力を高めていくことを推進する。

＜主な取組＞

○三陸復興国立公園のパークボランティアや自然環境情報との連携による三陸エリアの魅力の向上

東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために、平成 25 年５月に指定された『三陸復興国立公園』を大船渡の魅力を高めるためにどのように活用していくかを検討する。

例えば、パークボランティアや自然環境情報との連携を図りながら、優美なリアス式海岸とウミネコなどの繁殖地、防災教育の拠点として、三陸の自然の恵みや暮らし・文化を体験できるメニューの組立てなどについて検討し、碁石海岸はもとより、綾里地区の綾里崎や越喜来地区の首崎などの岬の魅力についても情報発信することを検討する。

穴通磯

首崎灯台

（３） 三陸ジオパークの取組をきっかけとした知名度向上

三陸ジオパークの取組をきっかけとして大船渡の知名度向上を図る。また、市立博物館の貴重な展示品を有効活用して、三陸ジオパークを身近な観光資源として利用していくものとする。

＜主な取組＞

○ジオサイトの有効活用

平成 25 年 9 月､『三陸ジオパーク』が日本ジオパークに認定されたことから､「ジオパーク」の活動として、保全・教育・ジオツーリズムの３つの構築を検討する。また、市内にはジオサイトとして「碁石海岸」､「気仙産金」等５つが設定されていることから、見学やガイドの育成を視野に入れて、大船渡の魅力を高めるツールとしてどのように活用していくかを検討する。

○三陸ジオパーク推進協議会との連携

三陸ジオパークの積極的な情報発信や地域での普及啓発、推進活動への住民参画及び教育旅行等の観光客の誘客に役立つように、ジオパークの推進に関わる取組、関係団体との情報交換及び連絡調整、地域資源の調査研究及び活用について三陸ジオパーク推進協議会との連携を推進する。

○市立博物館の展示内容の再構築の検討

ジオパークの魅力が伝わりやすいように、手にとってふれて体感し、主体的に情報収集や学習ができる（インタラクティブ型）ものとして、展示内容の再構築について検討する。

（４） 世界文化遺産「平泉」との連携による大船渡の独自性の再構築

世界文化遺産「平泉」との連携を強めることで、奥州藤原氏の平泉黄金文化とゆかりがある「黄金の郷」のひとつとして、三陸沿岸の中における大船渡の独自性の再構築を行う。

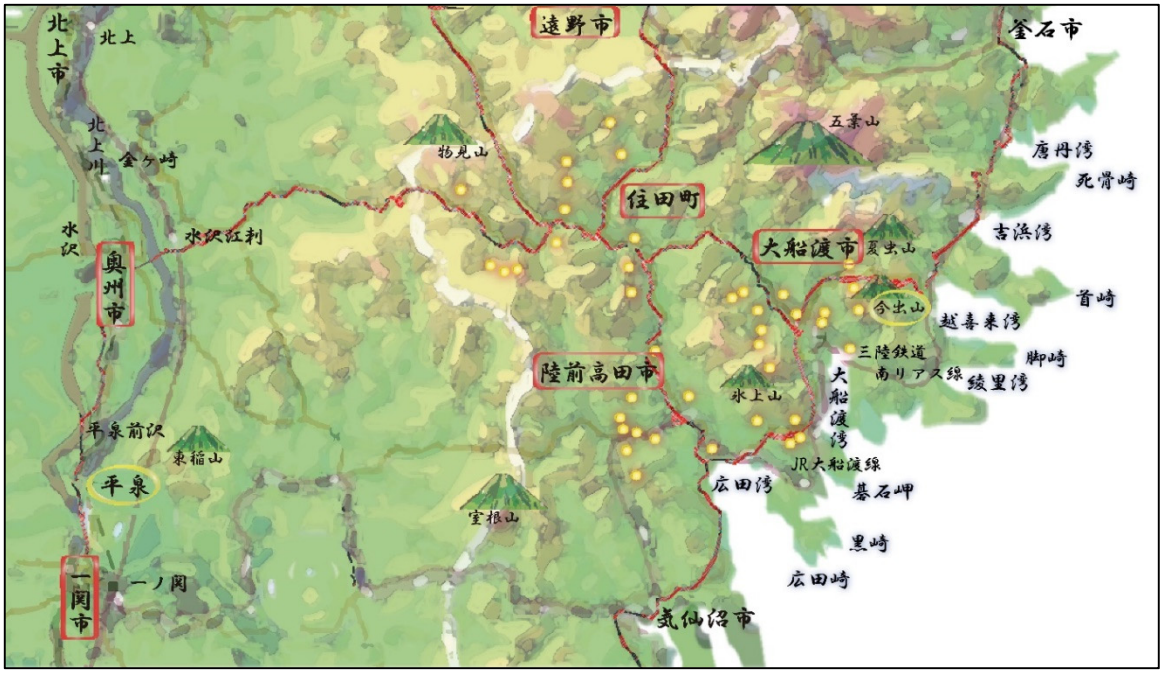
＜主な取組＞

○黄金王国推進委員会との連携

県南地域の活性化と観光振興を図るために、平泉の黄金文化や産金地帯であったことの価値、伊達藩とのつながりなどの歴史の視点も勘案しながら、旅行商品の検討、観光客受入れ体制の整備、宣伝活動への参加、観光推進策の計画立案等について黄金王国推進委員会との連携を推進する。

○産金地帯等の歴史資源を活用した観光ルートの検討

世界文化遺産「平泉」の黄金文化を支えた気仙、江刺、遠野、本吉、東磐井の産金地帯などの歴史を背景として、平泉町、一関市の「黄金街道」に関わる取組を推進するとともに、奥州市、遠野市とも連携し、歴史資源を活かした大船渡から平泉までの観光ルートについて検討する。



産金地帯等の歴史資源を活用した観光ルートの検討イメージ

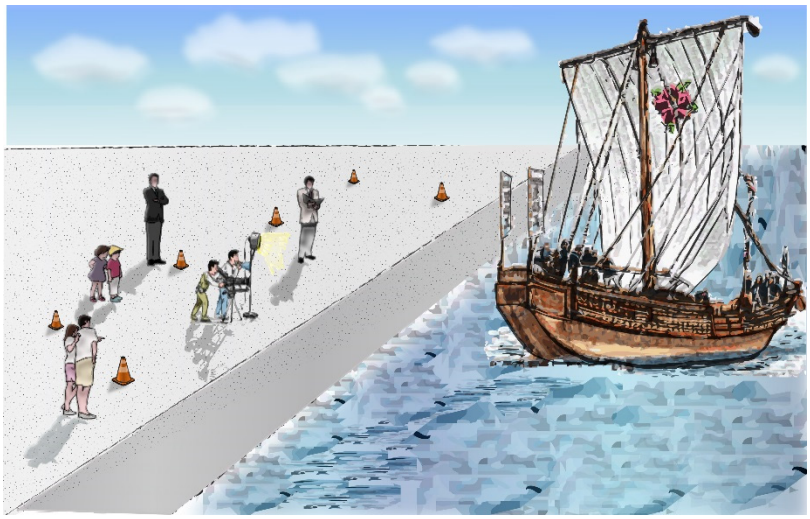
（５） フィルムコミッションの展開による岩手内陸の観光地と連携した大船渡のイメージ向上

奥州市、遠野市、平泉町等と連携して歴史関係の映画やテレビの撮影地として大船渡を利用してもらえるように、映画撮影等に関する各種取組の支援や誘致活動を積極的に推進する。そして、県内陸の観光地と連携した映画の撮影地であるイメージを創出し、大船渡のイメージや知名度の向上を図ることで、県内陸の観光地を訪れる観光客の誘客につなげていく取組を推進する。

＜主な取組＞

○歴史資源を活用したフィルムコミッション展開の検討

「歴史公園えさし藤原の郷」、「遠野ふるさと村」等と連携して、大船渡の海、気仙大工が手がけた屋敷や寺社仏閣、気仙丸等を撮影地としたフィルムコミッションを積極的に展開し、大船渡のイメージを高める取組を検討する。



フィルムコミッションイメージ

○三陸鉄道を活用したスクリーンツーリズムの促進

「あまちゃん効果」を起爆剤として、三陸鉄道を活用した第二、第三の取組を支援し、単発に終わらないスクリーンツーリズムを促進する。

○見どころのリスト化とエキストラ確保等の仕組みづくり

映画やコマーシャルの撮影地として、大船渡本来の魅力を伝えることを検討する。そのために、街並みの整備や見どころのリスト化、及びエキストラ確保などができる仕組みづくりを検討する。

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
4．三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上									
（1）気仙地域自治体等との連携による魅力の再発見									
三陸・けせん観光協議会との連携	━	━	━	◎	◎	○	○	－	商業観光課
ケセンきらめき大学の取組との連携		━	━	◎	◎	○	○	○	商業観光課
（2）三陸復興国立公園におけるソフト展開との連携									
三陸復興国立公園のパークボランティアや自然環境情報との連携による三陸エリアの魅力の向上	━	━	━	◎	◎	●	－	○	商業観光課 生涯学習課
（3）三陸ジオパークの取組をきっかけとした知名度向上									
ジオサイトの有効活用		━	━	◎	◎	●	○	○	商業観光課 生涯学習課
三陸ジオパーク推進協議会との連携	━	━	━	◎	◎	●	○	○	商業観光課 生涯学習課
市立博物館の展示内容の再構築の検討			━	◎	○	－	－	－	商業観光課 生涯学習課
（4）世界文化遺産「平泉」との連携による大船渡の独自性の再構築									
黄金王国推進委員会との連携	━	━	━	◎	◎	●	○	○	商業観光課
産金地帯等の歴史資源を活用した観光ルートの検討		━	━	◎	◎	●	○	○	商業観光課 生涯学習課
（5）フィルムコミッションの展開による岩手内陸の観光地と連携した大船渡のイメージ向上									
歴史資源を活用したフィルムコミッション展開の検討		━	━	◎	●	◎	○	○	商業観光課 生涯学習課
三陸鉄道を活用したスクリーンツーリズムの促進	━	━	━	●	◎	●	◎	○	商業観光課
見どころのリスト化とエキストラ確保等の仕組みづくり			━	◎	●	◎	○	○	商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

基本方針５　大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進

物産展や都市間交流および各種キャンペーン活動等により、大船渡の魅力を多面的に発信するとともに、実際に大船渡に来た観光客に対して、大船渡の魅力を十分に伝えることができる取組を推進する。

＜基本方針＞

大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進

＜具体施策＞

（１）大船渡を代表する風景の再点検による新たな魅力の発信

（２）三陸・大船渡の顔となる公式ホームページの拡充及び観光案内マップの充実

（３）既存イベントと復興イベントの戦略的な共同展開による誘客力の向上

（４）海の幸と三陸鉄道（南リアス線）の知名度を活かしたキャンペーンの展開

（５）首都圏への特産品の販路拡大と「食」を通じた大船渡の魅力の発信

（６）銀河連邦や被災地支援自治体との都市間交流による大船渡の魅力の伝達

（７）イベントやモニターツアー等を活用した観光客の意識調査

（１） 大船渡を代表する風景の再点検による新たな魅力の発信

変化に富む海岸線が織り成す景観などが大船渡観光の魅力の一つとされ、これまでにも多くの観光ポスターやパンフレット等に使用されてきた。こうした代表的な風景を再点検するとともに、新たな風景の発見に取り組み、観光ポスター、パンフレット、絵葉書、ホームページ等を活用して紹介することで新たな魅力を発信する。

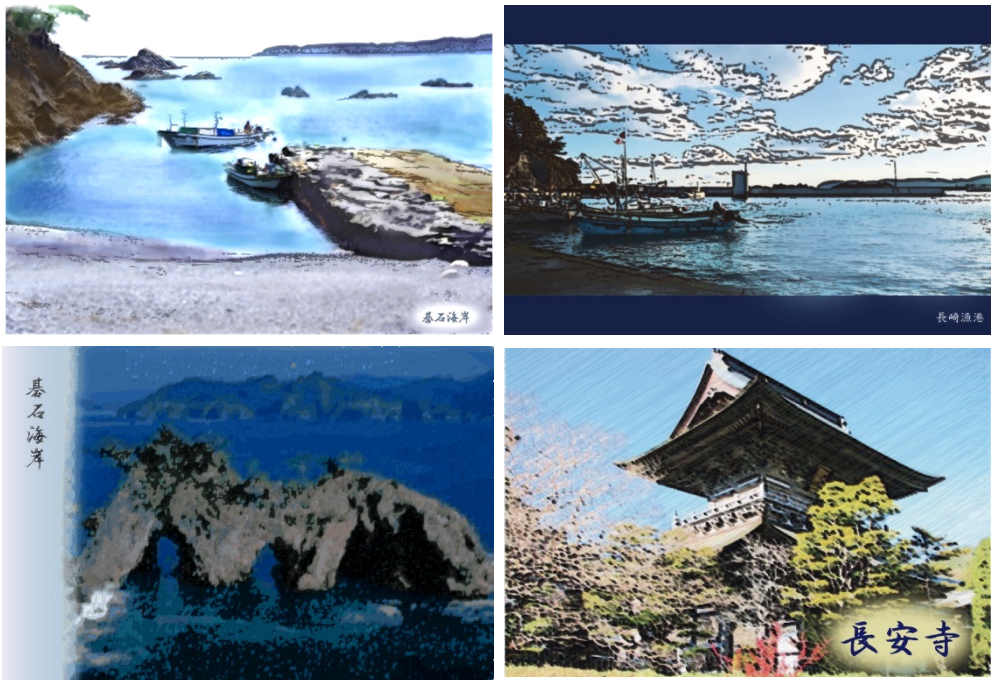
＜主な取組＞

○代表的風景の再点検

代表的な風景を再点検するとともに、新たな風景の発見に取り組み、観光ポスター、パンフレット、ホームページ等を活用して紹介することで新たな魅力を発信する。

○風景素材の有効活用

代表的な景観や新たな風景を、絵葉書として土産品にも活用することを検討する。



絵はがきイメージ

（２） 三陸・大船渡の顔となる公式ホームページの拡充及び観光案内マップの充実

一般社団法人大船渡市観光物産協会のホームページを拡充することにより、事前に大船渡のことをもっと知りたいと思う観光客に対して、大船渡の見どころがわかり、安心して旅行に出かけることができるような取組を推進する。

＜主な取組＞

○公式ホームページの拡充

大船渡の観光情報を多角的に情報発信するため、一般社団法人大船渡市観光物産協会の公式ホームページの拡充を推進する。また、市は同協会と役割分担のもと、観光行政に関わる情報の充実に努める。

○ツイッター、フェイスブック等、ＳＮＳ活用による情報発信

一般社団法人大船渡市観光物産協会職員や観光に関わる事業者及び観光客が一体となって大船渡観光のよいところを共有するために、ツイッター、フェイスブック等の SNS を活用にした情報発信を推進する。また、大船渡にゆかりのある有名人との連携も検討する。そして、このような取組を通して、はじめて大船渡を訪れる観光客にも旬の情報が提供できる環境整備を促進する。

○スマートフォンに対応した観光案内アプリ等の開発と各地域の顔や表情が見える観光案内マップの充実

大船渡観光を快適に楽しんでもらうために、スマートフォンに対応したアプリケーションの開発を検討する。

各地域でどのような取組が行われ、魅力ある観光体験ができるのか興味を持っていただくために、地域の顔や表情が見える観光案内マップの充実を図る。

魅力を伝えるホームページイメージ

（３） 既存イベントと復興関連イベントの戦略的な共同展開による誘客力の向上

既存イベントと復興関連イベントの戦略的な共同展開により、誘客力の向上を図る。また、大船渡港への大型客船の寄港時期に合わせた地域イベントの開催により、広く大船渡の魅力を知ってもらうとともに、クルーズファンの満足度を高め、新たな誘客につながる取組を検討する。このほか、既存のスポーツ関連イベントで大船渡を訪れる参加者を対象に大船渡の魅力に触れる取り組みについて検討する。

＜主な取組＞

○観光イベントの開催時期集約による四季を代表するイベントの構築の検討

現在行われている既存イベントや新たに取り組まれている復興関連イベント、及び震災により休止中の観光関連イベントは、準備段階から可能な限り関係主体間の連携を図る。また、より一層の集客を図られるように開催時期を集約したり、イベント案内時に同時開催を強調するなど、四季を代表するイベントとして組立て直すことで誘客力の向上を図ることを検討する。

三陸・大船渡夏まつり

魚介類を堪能するイメージ

○既存のスポーツ関連イベントを活用した大船渡の魅力に触れるきっかけの検討

大船渡ポートサイドマラソン等のスポーツ関連イベント開催時の参加前後に、大船渡の「食」を堪能したり、市内の主要な観光スポットを案内するなどの取り組みと絡めることにより、大船渡の魅力に触れる機会の創出を検討する。

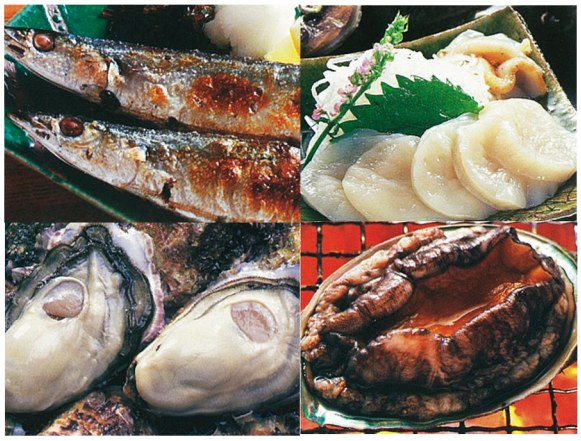
（４） 海の幸と三陸鉄道（南リアス線）の知名度を活かしたキャンペーンの展開

海の幸と三陸鉄道の知名度を活かしたキャンペーンの展開を推進する。また、一度見ただけで大船渡関連として、県外の方も市民も共感できる広告塔の効果的な展開を検討する。

＜主な取組＞

○海の幸と三陸鉄道のキャンペーンの展開

首都圏では、三陸の海の幸とあまちゃん効果による三陸鉄道の人気が高いことから、これらの魅力を活かしてＰＲに役立てていくことに努める。



海産物例

○キャラクターの効果的な運用によるキャンペーンの展開

現在、大船渡を代表するマスコットキャラクターとして「おおふなトン」があるが、今後は、他の個性的な各キャラクターにも焦点をあてて、世界観をクロスオーバーさせるなどの効果的な運用により、地域の独自性を観光客に受入れやすい形でキャンペーンの展開していくことを検討する。

また、鉄道男子のキャラクターの一人「恋し浜レン」は大船渡市出身であり、恋し浜駅の取組とも関連が深いことから、駅名に「恋」のつく駅を持つ鉄道４社との連携も検討する。このほか、ＪＲ大船渡線ＢＲＴと連携したキャンペーンの展開も視野に入れて検討する。

おおふなトン

スネカ

権現様

各種キャラクターのスケール感の統一例

（５） 首都圏への特産品の販路拡大と「食」を通じた大船渡の魅力の発信

首都圏で開催される物産展への出店や見本市、イベント、商談会の開催などへの支援を行い、食を通じて大船渡の魅力を伝えることにより、大船渡の知名度を高めることで地元特産品の販路開拓・拡大を図るとともに、大船渡観光への動機づけを行う。

また、市内・県内消費者とのつながりを強化することで、首都圏に向けたブランド力の強化に努める。

＜主な取組＞

○いわて銀河プラザでの取組の強化

地元特産品の紹介や販売を主目的とした、岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」での取組の一層の強化を検討する。

○物産販売と合わせた大船渡観光のきっかけづくり

大船渡産の食材を提供する関東圏の飲食店をモデルケースとして、大船渡の食材を用いた飲食店の設置を支援することにより、大船渡観光へのきっかけや情報発信窓口を作ることを検討する。

魚介類の販売の様子

いわて銀河プラザ

○市内・県内消費者とのつながりの強化

市内・県内消費者の信頼を獲得することにより、大船渡産食材のブランド力強化に努める。岩手県を訪れた県外の観光客が海産物のおいしい場所を県民に尋ねた際に、大船渡の地名が真っ先に挙がることを目指す。

○東京タワーさんままつりでの大船渡の魅力の発信

「三陸・大船渡東京タワーさんままつり」を継続的に実施し、大船渡の知名度向上を図る。炭火焼きサンマを無料提供するだけでなく、大船渡の魅力を伝え、ぜひ行ってみたくなるプロモーション展開を検討する。

（６） 銀河連邦や被災地支援自治体との都市間交流による大船渡の魅力の伝達

銀河連邦との交流の促進や被災地支援自治体と連携したキャンペーンの展開などを通じて大船渡の魅力の伝達を推進する。

＜主な取組＞

○銀河連邦との交流の促進

銀河連邦では、サミット・フォーラムの開催や児童交流、物産展開催などの事業を行い、共和国間の友好を深めていることから、今後も交流の促進に取り組む。

※銀河連邦は、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA：ジャクサ）の施設がある岩手県大船渡市（三陸大気球観測所）、秋田県能代市（能代多目的実験場）、神奈川県相模原市（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部）、長野県佐久市（臼田宇宙空間観測所）、鹿児島県肝付町（内之浦宇宙空間観測所）の五市町がお互いに手をつなぎ、宇宙平和の一翼を担うとともに、人々の笑顔あふれるユートピアの創造を目指し、昭和 62 年 11 月に建国されたものである。

○銀河連邦構成自治体の特産品とコラボレーションした特産品の開発

銀河連邦構成自治体への大船渡の特産品などの販売促進を図るとともに、銀河連邦構成自治体の特産品とコラボレーションした特産品の開発等を検討する。

○復興支援自治体と連携したキャンペーンの展開

被災地支援でお世話になった自治体との交流をきっかけとして、大船渡の物産や魅力を広く発信することで、大船渡への誘客促進の向けたキャンペーンの展開の検討を行う。

（７） イベントやモニターツアー等を活用した観光客の意識調査

市内外で開催するイベントを通じて観光客の動向や意識調査を行うとともに、市内周遊モニターツアー等を実施してサービス内容の満足度等の把握に努める。

＜主な取組＞

○観光客調査及び観光客意識調査などによるマーケティングの強化

大船渡への誘客の促進を図るため、観光客調査の継続的な実施と観光客意識調査などによるマーケティングの強化を図る。

○モニターツアー等による検証と各種観光メニュー開発事業者への情報提供

観光客のニーズにあった各種観光メニューを創出するため、市内周遊モニターツアー等の実施により検証作業を行うとともに、各種観光メニュー開発事業者への情報提供を推進する。

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
５．大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進									
（１）大船渡を代表する風景の再点検による新たな魅力の発信									
代表的風景の再点検		―		◎	◎	○	○	○	商業観光課
風景素材の有効活用		―	―	◎	◎	●	○	－	商業観光課
（２）三陸・大船渡の顔となる公式ホームページの拡充及び観光案内マップの充実									
公式ホームページの拡充	―	―		●	◎	●	－	－	商業観光課
ツイッター、フェイスブック等、ＳＮＳ活用による情報発信	―	―	―	●	◎	●	◎	◎	商業観光課
スマートフォンに対応した観光案内アプリ等の開発と各地域の顔や表情が見える観光案内マップの充実		―	―	◎	◎	○	○	○	商業観光課
（３）既存イベントと復興関連イベントの戦略的な共同展開による誘客力の向上									
観光イベントの開催時期集約による四季を代表するイベントの構築の検討		―	―	◎	◎	●	○	○	商業観光課
既存のスポーツ関連イベントを活用した大船渡の魅力に触れるきっかけの検討		―	―	◎	◎	●	◎	◎	商業観光課
（４）海の幸と三陸鉄道（南リアス線）の知名度を活かしたキャンペーンの展開									
海の幸と三陸鉄道のキャンペーンの展開	―	―	―	◎	◎	○	◎	－	商業観光課
キャラクターの効果的な運用によるキャンペーンの展開		―	―	◎	◎	○	○	－	商業観光課
（５）首都圏への特産品の販路拡大と「食」を通じた大船渡の魅力の発信									
いわて銀河プラザでの取組の強化	―	―		◎	◎	○	○	－	商業観光課
物産販売と合わせた大船渡観光のきっかけづくり		―	―	●	◎	●	◎	－	商業観光課
市内・県内消費者とのつながりの強化		―	―	●	◎	●	◎	－	商業観光課
東京タワーさんままつりでの大船渡の魅力の発信	―	―		◎	◎	○	○	－	商業観光課
（６）銀河連邦や被災地支援自治体との都市間交流による大船渡の魅力の伝達									
銀河連邦との交流の促進	―	―	―	◎	◎	●	○	○	企画調整課 商業観光課
銀河連邦構成自治体の特産品とコラボレーションした特産品の開発		―	―	◎	◎	◎	○	－	商業観光課
復興支援自治体と連携したキャンペーンの展開	―	―	―	◎	◎	●	－	－	企画調整課 商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

● 主な取組の実施時期と推進主体（つづき）

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
５．大船渡観光ＰＲの推進と物産販売を通じた誘客の促進									
（７）イベントやモニターツアー等を活用した観光客の意識調査									
観光客調査及び観光客意識調査などによるマーケティングの強化	━	━	━	◎	◎	○	○	－	商業観光課
モニターツアー等による検証と各種観光メニュー開発事業者への情報提供		━	━	◎	◎	○	○	○	商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

基本方針６ 古来からの風習を大切にしたおもてなしの心の育成と実践

古来からの気仙地域の良き風習である「おちつき」の精神を現代に活かして、おもてなしの心を育成するとともに、実践できる人々を増やすことを目指す。

＜基本方針＞

古来からの風習を大切にした
おもてなしの心の育成と実践

＜具体施策＞

- （１）おもてなしができる市民・事業者の意識啓発と実践の促進
- （２）大船渡の観光振興を担う人材の育成
- （３）復興支援者との交流の継続による大船渡ファンの獲得
- （４）外国人観光客の来訪に備えた受入れ態勢の準備

（１） おもてなしができる市民・事業者の意識啓発と実践の促進

市民・事業者がおもてなしを自然にできるように、意識啓発と実践を促進する。

＜主な取組＞

○先進地視察や研修会の開催、おもてなしガイドブック等の作成・配布

「やさしい」、「温かい」などの大船渡市民の気質を活かして、来訪者との心温まるふれあいや、「来て良かった」と思われる対応ができるように、一般社団法人大船渡市観光物産協会をはじめとする関係団体と連携して、先進地視察や研修会の開催、テキストの配布等により、関係者の啓発を図る。

また、宿泊施設事業者や飲食店等、観光客と接するすべての観光関連事業者を対象に、県で作成、配布予定の「おもてなしガイドブック」を活用するとともに、市独自の補足説明資料を作成して、意識啓発を推進する。

○「おちつき」の精神によるおもてなしの気運づくりと実践の促進

観光に携わる人々と市民が、大船渡の旬の食材やお奨めスポット等の大船渡の魅力を伝えられるように啓発活動を推進する。特に、古来からの良き文化の「おちつき」の精神を再認識して、観光客をもてなす取組を促進する。

ガイドの様子
※椿の里大船渡ガイドの会

郷土食「おちつき」
※大船渡おもてなし隊

○宿泊サービス機能向上の促進の可能性検討

各種観光イベントや大船渡ポートサイドマラソン等のスポーツ関連イベント開催時に大船渡を訪れる観光客やイベント参加者が長く滞在したくなるように、宿泊施設事業者が連携して会場までの送迎やイベント情報の共有によるご当地情報の発信、及びスポーツ関連イベント参加者同士の交流等のサポート対応ができるような取組促進の可能性について検討する。

（２） 大船渡の観光振興を担う人材の育成

これまで大船渡の観光を支えてきた観光ボランティアガイドやインストラクターの維持を図る。また、大船渡の各地域で観光リーダーとして活躍する人材や、女性や若者を中心とした新たな担い手の育成等を推進する。また、これらの人々の交流を深めることにより、各地域の取組の発展を促していくものとする。

＜主な取組＞

○「気仙まるごとものしり検定」を活用した観光ボランティアガイド、インストラクターの維持と育成

観光メニューを提供する豊富な人材を確保するため、観光ボランティアガイドやインストラクターの維持と育成に関わる取組を推進する。

また、「気仙まるごとものしり検定」の継続的な取組を支援し、観光案内やおもてなしの要素を取り入れた試験内容に拡充することで、観光ガイドの育成に役立てることを検討する。

※ケセンきらめき大学は、「ローカルなものこそグローカルになり得る」の発想のもとに、ケセン（住田町・陸前高田市・大船渡市）への観光立地を目指した地元学研究や、地域資源を活用した食・特産品開発、友好都市交流等を授業の柱に掲げ、それらの実践による「気仙おこし」を目的としている。

「気仙まるごとものしり検定」の様子

東海新報社提供

○地域の観光リーダーを養成するセミナー等への派遣支援

地域の観光リーダーを増やすため、外部機関で開催されるセミナー等への地域で活躍する女性や若者などの派遣を支援する。

○地域の観光リーダーや各観光ガイド組織等の交流による取組の発展

各種取組相互の情報交換を促進するため、各地で活躍している観光リーダーの交流・連携機会を創出する。特に、各地で取り組んでいる観光ガイド組織間の交流を深めることにより、さらに質の高い取組への発展を促進する。

（３） 復興支援者との交流の継続による大船渡ファンの獲得

復興支援者との交流継続による大船渡ファンの獲得を目指すものとする。

＜主な取組＞

〇復興支援者との交流の継続

現在、交流のある復興支援者や大学生などと連携した取組を継続させ、大船渡ファンの獲得につなげていくものとする。

（４） 外国人観光客の来訪に備えた受入れ態勢の準備

将来的な外国人旅行者の誘客に備えて、外国人への接客ができる人材の育成を推進する。

＜主な取組＞

〇海外視察者等に対して大船渡の魅力を伝えることができる人材の育成

岩手県では、台湾、香港、韓国、中国などのアジアと訪日客数が大きく伸びている ASEAN を重点市場と位置づけており、また、今後有望市場となる可能性のあるイスラム圏からの誘客にも取り組む予定であることから、これらの国々から訪れる視察者に対して、その国の文化を理解して「おちつき」の精神や気仙地域の歴史を踏まえた大船渡の魅力等を、十分伝えることができる人材の育成を推進する。

〇外国人観光客の受入環境の整備

観光案内表示、公共施設等の外国語の併記など、外国人観光客を受入れる気運の醸成や受入環境の整備に取り組む。

● 主な取組の実施時期と推進主体

施策項目	実施時期			推進主体					
	前期	中期	後期	行政	観光物産協会	商工会議所	事業者	市民	担当部署
6．古来からの風習を大切にしたおもてなしの心の育成と実践									
（1）おもてなしができる市民・事業者の意識啓発と実践の促進									
先進地視察や研修会の開催、おもてなしガイドブック等の作成・配布	━	━		◎	◎	●	○	○	商業観光課
「おもてつき」の精神によるおもてなしの気運づくりと実践の促進	━	━	━	◎	◎	◎	◎	◎	商業観光課
宿泊サービス機能向上の促進の可能性検討			━	◎	◎	○	◎	－	商業観光課
（2）大船渡の観光振興を担う人材の育成									
「気仙まるごとものしり検定」を活用した観光ボランティアガイド、インストラクターの維持と育成		━	━	◎	●	●	○	◎	商業観光課
地域の観光リーダーを養成するセミナー等への派遣支援	━	━	━	◎	●	●	◎	◎	商業観光課
地域の観光リーダーや各観光ガイド組織等の交流による取組の発展		━	━	◎	●	●	◎	◎	商業観光課
（3）復興支援者との交流の継続による大船渡ファンの獲得									
復興支援者との交流の継続	━	━	━	◎	●	●	◎	◎	商業観光課
（4）外国人観光客の来訪に備えた受入れ態勢の準備									
海外視察者等に対して大船渡の魅力を伝えることができる人材の育成		━	━	◎	◎	◎	○	○	商業観光課
外国人観光客の受入環境の整備		━	━	◎	◎	◎	○	○	商業観光課

主体区分：◎主体的、●支援、○参加協力

第5章 推進体制

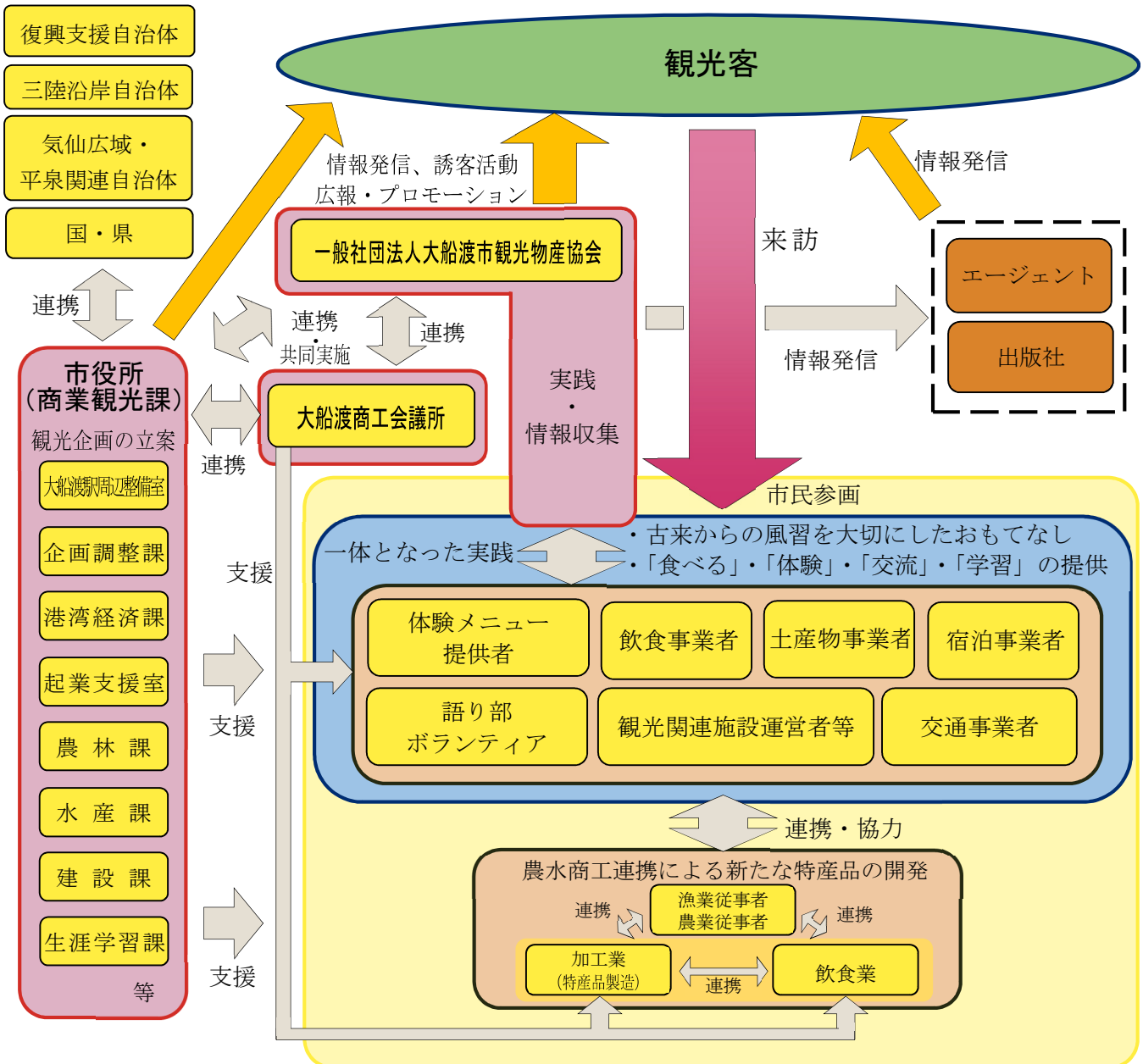
1．大船渡市観光ビジョンの推進に向けて

大船渡市の観光振興に向けた本ビジョンの推進に当たっては、観光企画の立案は市役所を中心として、一般社団法人大船渡市観光物産協会及び大船渡商工会議所との役割分担と連携のもとに取り組むこととする。

また、観光企画の実践は、一般社団法人大船渡市観光物産協会を中心として、市内の観光関連事業者と市民が一体となって取り組むこととする。

なお、必要に応じて企画段階から市民参加型のワークショップを開催することとする。

さらに、市役所は各担当部署が連携し、観光振興と特産品開発等に関わる取組を支援することとする。



平成 26 年 9 月

大船渡市